



**Hewlett Packard**  
Enterprise

## **HPE Insight Control 7.6 リリースノート**

### **摘要**

このドキュメントでは、HPE Insight Control のリリース内容について説明し、制限事項、重要/軽度な問題とその推奨処置に関する情報を提供します。

部品番号: 871751-591  
発行: 2016 年 12 月  
版数: 1

# 目次

<b>HPE Insight Control 7.6 リリースノート</b> .....	<b>4</b>
概要.....	4
アップデートの推奨.....	4
置き換えられるバージョン.....	4
オペレーティングシステムおよびデバイス.....	4
機能強化.....	4
HPE Insight Control 7.6.....	4
HPE Insight Control パフォーマンス管理.....	5
HPE Insight Control 電力管理.....	5
HPE Insight Control サーバー移行.....	6
HPE Insight Control サーバープロビジョニング.....	7
HPE Insight Control 仮想マシン管理.....	8
前提条件.....	10
問題と推奨処置.....	10
HPE Insight Control 電力管理.....	10
HPE Insight Control サーバー移行.....	14
HPE Insight Control サーバープロビジョニング.....	19
HPE Insight Control 仮想マシン管理.....	27
HPE Insight Control パフォーマンス管理.....	38
Insight managed system setup wizard.....	40
<b>Web サイト</b> .....	<b>42</b>
<b>サポートと他のリソース</b> .....	<b>43</b>
Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス.....	43
アップデートへのアクセス.....	43
カスタマーセルフリペア (CSR).....	44
リモートサポート (HPE 通報サービス).....	44
保証情報.....	44
規定に関する情報.....	44
ドキュメントに関するご意見、ご指摘.....	45

## ご注意

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett Packard Enterprise 製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱落に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett Packard Enterprise から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商用コンピューター・ソフトウェア、コンピューター・ソフトウェア資料、および商用製品の技術情報は、ベンダー標準の商用ライセンスのもとで米国政府に使用許諾が付与されます。

他社の Web サイトへのリンクは、Hewlett Packard Enterprise の Web サイトの外に移動します。Hewlett Packard Enterprise は、Hewlett Packard Enterprise の Web サイト以外にある情報を管理する権限を持たず、また責任を負いません。

## 商標

Microsoft® および Windows® は、Microsoft Corporation の商標です。

VMware® は、VMware Inc. の登録商標です。

Red Hat® は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です。

Linux® は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Java および Oracle は、Oracle および/またはその関連会社の登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

すべての HPE 9000 コンピューター上の HP-UX Release 10.20 以降および HP-UX Release 11.00 以降 (32 ビット構成および 64 ビット構成) は、Open Group UNIX 95 ブランドの製品です。

Intel® および Itanium® は、インテルコーポレーションまたはその子会社のアメリカ合衆国およびその他の国における商標または登録商標です。

# HPE Insight Control 7.6 リリースノート

HPE Insight Control 7.6 リリースノートでは、機能拡張、制限事項、および重要/軽度な問題とその推奨処置について説明します。

## 概要

HPE Insight Control は、HPE ProLiant サーバーおよび HPE Synergy サーバーをプロビジョニング、管理、制御、および最適化するために設計されたサーバー管理ソフトウェアです。

HPE Insight Control について詳しくは、Web サイト <http://www.hpe.com/jp/insightcontrol> を参照してください。

## アップデートの推奨

7.4.x および 7.5.x のバージョンを実行しているお客様は、7.6 バージョンにアップグレードすることをお勧めします。

## 置き換えられるバージョン

なし

## オペレーティングシステムおよびデバイス

このリリースは、*HPE Insight Management サポートマトリックス*に掲載されているオペレーティングシステムとデバイスをサポートします。

## 機能強化

この項では、HPE Insight Control ソフトウェアの機能強化について説明します。

## HPE Insight Control 7.6

以下の項では、このリリースで利用可能な新しい機能を、HPE Insight Control の機能または機能領域ごとにまとめて示しています。

*HPE Insight Management サポートマトリックス*には、HPE Insight Control 7.6 のインストールおよび実行のためのハードウェア、ファームウェア、およびソフトウェアの最小要件、ならびにすでにサポートされているオペレーティングシステム、ハイパーバイザー、OS 以外のソフトウェアの最新リビジョンのリストが掲載されています。また、今回のリリースで新たにサポートされたハードウェアのリストも掲載されています。サポートされていないソフトウェアおよびハードウェアについても記録されています。*HPE Insight Management サポートマトリックス*は、[Hewlett Packard Enterprise Information Library](#)にあります。

---

### 注記:

HPE Insight Management 7.6 リリースは、HPE Insight Control サーバープロビジョニング 7.6 リリースの使用をサポートします。HPE Insight Control サーバープロビジョニング 7.6 リリースの情報については、*HPE Insight Control リリースノート*および *HPE Insight Management サポートマトリックス*を参照してください。

---

次の項では、HPE Insight Control コンポーネントの新機能、ハードウェア、ソフトウェア、オペレーティングシステム、およびハイパーバイザーのサポートを示します。

- **新しい CMS/ハイパーバイザーソフトウェアのサポート**

VMware vSphere 6.0 Update 2  
Microsoft Windows Server 2016  
Microsoft Hyper-V Server 2016  
Microsoft Windows Server 2016 Hyper-V  
Microsoft Windows Nano Server 2016 Hyper-V

- **新しい管理対象ノードのサポート**

Microsoft Windows Nano Server 2016  
Microsoft Windows Nano Server 2016 Hyper-V  
Microsoft Windows Server 2016  
Microsoft Windows Server 2016 Hyper-V  
Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.8  
Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.8 上の KVM

- **新しいブラウザサポート**

IE タブ拡張付き Google Chrome 50 以降

## HPE Insight Control パフォーマンス管理

このリリースでは、HPE Insight Control パフォーマンス管理は次のものをサポートします。

- **新しいソフトウェアサポート**

Microsoft SQL Server 2012 SP 3  
Java Runtime Environment (JRE) 1.8 Update 45 以降  
Microsoft SQL Server 2016  
Service Pack for ProLiant 2016.10.0

- **新しいハードウェアサポート**

HPE ProLiant XL260a Gen9  
HPE ProLiant XL270d Gen9

- **新しい管理対象ノードのサポート**

Microsoft Windows Server 2016 (Standard および Datacenter)  
Microsoft Windows Server 2016 Hyper-V (Standard および Datacenter)  
Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.8

- **新しい CMS ソフトウェアサポート**

VMware vSphere 6.0 Update 2  
Microsoft Windows Server 2016  
Microsoft Windows Nano Server 2016 Hyper-V  
Microsoft Windows Server 2016 Hyper-V  
Microsoft Hyper-V Server 2016

- **新しいブラウザサポート**

IE タブ拡張付き Google Chrome 50 以降

## HPE Insight Control 電力管理

このリリースでは、HPE Insight Control 電力管理は次のものをサポートします。

- **新しい管理対象ノードのサポート**

Microsoft Windows Server 2016 (Standard および Datacenter)  
Microsoft Windows Server 2016 Hyper-V (Standard および Datacenter)  
Microsoft Windows Nano Server 2016 (Standard および Datacenter)

Microsoft Windows Nano Server 2016 Hyper-V (Standard および Datacenter)  
Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.8  
Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.8 上の KVM

- **新しいソフトウェアサポート**

Microsoft SQL Server 2012 SP 3  
HP Integrity Integrated Lights-Out (iLO) 3 ファームウェア(1.71.06)  
Java Runtime Environment (JRE) 1.8 Update 45 以降  
Adobe Flash アップデートバージョン 22  
Microsoft SQL Server 2016  
Onboard Administrator 4.60  
HPE iLO 4 バージョン 2.50

- **新しいハードウェアサポート**

HPE ProLiant XL260a Gen9  
HPE ProLiant XL270d Gen9

- **新しい CMS ソフトウェアサポート**

Microsoft Windows Server 2016  
VMware vSphere 6.0 Update 2  
Microsoft Windows Nano Server 2016 Hyper-V  
Microsoft Windows Server 2016 Hyper-V  
Microsoft Hyper-V Server 2016

- **新しいブラウザーサポート**

IE タブ拡張付き Google Chrome 50 以降

## HPE Insight Control サーバー移行

このリリースでは、HPE Insight Control サーバー移行は次のものをサポートします。

- **新しいサーバーサポート**

HPE ProLiant XL260a Gen9  
Microsoft Windows Server 2016 管理対象ノード  
Microsoft Windows Server 2016 Hyper-V サポート

- **新しいソフトウェアサポート**

HP Smart Update Manager (HP SUM) v7.6.0  
Java Runtime Environment (JRE) 1.8 Update 45 以降  
Network Controller Driver Ethernet (NCDE) 11.60

- **新しい管理対象ノードのサポート**

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.8 管理対象ノード  
VMware vSphere 6.0 Update 2 CMS  
Microsoft Windows Server 2016 CMS  
Windows 2016 Hyper-V

- **新しいオペレーティングシステムのサポート**

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.8  
Microsoft Windows Server 2016

- **新しい NIC カードサポート**

HPE Ethernet 25 Gb 2 ポート 640FLR-SFP28 アダプター  
HPE Ethernet 25 Gb 2 ポート 640SFP28 アダプター

HPE FlexFabric 10 Gb 4 ポート 536FLR-T アダプター  
HPE Ethernet 25 Gb 4 ポート 620QSFP28 アダプター

- **新しいストレージサポート**

HPE 3PAR StoreServ 7000 および 10000 FC および iSCSI 上の HPE 3PAR OS 3.2.2 MU3  
HPE 3PAR StoreServ 8000 および 20000 FC および iSCSI 上の HPE 3PAR OS 3.2.2 MU3  
GL250 ファームウェア (FC、iSCSI、SAS) による HP MSA 1040/2040 のサポート  
Command View EVA 10.3.8  
HPE StoreVirtual Storage と組み合わされた HPE LeftHand OS 12.6

- **新しいブラウザサポート**

Google Chrome 50 以降

## HPE Insight Control サーバープロビジョニング

このリリースでは、HPE Insight Control サーバープロビジョニングは次のものをサポートします。

- **新しいサーバーサポート**

HPE Synergy 480 Gen9  
HPE Synergy 620 Gen9  
HPE Synergy 680 Gen9  
HPE Synergy 660 Gen9  
HPE ProLiant XL280d Gen9  
HPE ProLiant XL270d Gen9  
HPE ProLiant XL260a Gen9<sup>1</sup>

- **新しいオペレーティングシステムのサポート**

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.8  
Microsoft Windows Server 2016  
Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.8 上の KVM

- **新しいソフトウェアサポート**

HPE iLO 4 バージョン 2.50  
HPE Intelligent Provisioning v2.50  
Service Pack for ProLiant 2016.10.0

- **新しい管理対象ノードのサポート**

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.8  
Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.8 上の KVM  
Microsoft Windows Server 2016  
Microsoft Windows Server 2016 Hyper-V

- **新しいハイパーバイザーのサポート**

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.8 上の KVM

- **新しいストレージサポート**

GL250 ファームウェア (FC、iSCSI、SAS) による HP MSA 1040/2040 のサポート  
HPE 3PAR StoreServ 7000 および 10000 FC および iSCSI 上の HPE 3PAR OS 3.1.2 MU3  
HPE 3PAR StoreServ 8000 および 20000 FC および iSCSI 上の HPE 3PAR OS 3.2.2 MU3  
HPE StoreFabric SN1100E 4 ポート  
HPE H240nr Smart ホストバスアダプター

---

<sup>1</sup> ◦ UEFI 最適化が有効にされたモードのみがサポートされます。  
◦ Windows オペレーティングシステムはサポートされていません。

HPE Smart アレイ P240nr コントローラー  
HPE Smart アレイ P542D コントローラー  
HPE StoreFabric SN1100E 16 Gb ホストバスアダプター

- **新しいブラウザーサポート**

Microsoft Internet Explorer 10  
Microsoft Internet Explorer 11  
Mozilla Firefox 45 ESR  
Mozilla Firefox 47 ESR  
Google Chrome 51

---

**注記:**

エンドユーザーのプライバシーとセキュリティを保護するベストプラクティスとして、HPE が推奨するまたはサポートするブラウザーでアプリケーションを使用してください。安全およびセキュリティを確保するため拡張機能またはアドオンは使用しないでください。

HPE Insight Control サーバープロビジョニング 7.6 バージョンは、Internet Explorer 9 ではサポートされていません。

---

- **新しい NIC カードサポート**

HPE Synergy 2820C 10 Gb コンバージドネットワークアダプター  
HPE Synergy 3820C 10/20 Gb コンバージドネットワークアダプター  
HPE Synergy 3830C 16G ファイバーチャネルホストバスアダプター  
HPE FlexFabric 10 Gb 4 ポート 536FLR-T アダプター  
HPE FlexFabric 10 Gb 2 ポート 556FLB アダプター  
HPE Ethernet 25 Gb 2 ポート 640FLR-SFP28 アダプター  
HPE Ethernet 10/25 Gb 2 ポート 640SFP28 アダプター  
HPE Ethernet 10 Gb 2 ポート 563i アダプター  
HPE InfiniBand EDR/Ethernet 100 Gb 2 ポート 840QSFP28  
HPE Ethernet 25 Gb 4 ポート 620QSFP28 アダプター

- **新しい OS ビルドプラン機能**

ProLiant OS - RHEL 6.8 x64 Scripted Install  
ProLiant OS - RHEL 6.8 x64 KVM Scripted Install  
ProLiant OS - Windows 2016 Standard x64 Image Capture  
ProLiant OS - Windows 2016 Standard x64 Image Install  
ProLiant OS - Windows 2016 Standard x64 Scripted Install  
ESXi 6.5 OS Build Plan のホワイトペーパーサポート

- **新しいユーザー機能**

- アプライアンス設定ページでのリモートバックアップの場所機能の有効化。
- PXE サービス OS CentOS 6.7 および CentOS 7.2。
- HPE Insight Control サーバープロビジョニングメディアサーバーユーティリティは、RHEL 6.8 および Windows 2016 サポートでアップデートされました。

## HPE Insight Control 仮想マシン管理

このリリースでは、HPE Insight Control 仮想マシン管理は次のものをサポートします。

- **新しい CMS サポート**

VMware vSphere 6.0 Update 2  
Microsoft Windows Server 2016  
Microsoft Windows Nano Server 2016 Hyper-V



Microsoft Windows Server 2016 Hyper-V  
Microsoft Hyper-V Server 2016

- **新しいソフトウェアサポート**

Microsoft SQL Server 2012 SP 3  
Java Runtime Environment (JRE) 1.8 Update 45 以降  
Microsoft SQL Server 2016

- **新しい管理対象ノードのサポート**

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.8

- **新しいブラウザーサポート**

IE タブ拡張付き Google Chrome 50 以降

- **新しい OS サポート**

Microsoft Windows Server 2016 Standard  
Microsoft Windows Server 2016 Datacenter  
Microsoft Windows Nano Server 2016 Standard  
Microsoft Windows Nano Server 2016 Datacenter

- **新しい仮想化管理ソフトウェア**

Microsoft System Center Virtual Machine Manager 2016

- **新しいハイパーバイザーのサポート**

Microsoft Windows Server 2016 Hyper-V Standard  
Microsoft Windows Server 2016 Hyper-V Datacenter  
Microsoft Windows Nano Server 2016 Hyper-V Standard  
Microsoft Windows Nano Server 2016 Hyper-V Datacenter  
Microsoft Hyper-V Server 2016 Standard  
Microsoft Hyper-V Server 2016 Datacenter

- **新機能**

VM のメモリのホットアドとホットリムーブ (Hyper-V 2016)  
VM のネットワークアダプターのホットアドとホットリムーブ (Hyper-V 2016)  
VMware vApp のサポート  
VMware ESXi Lazy Zero ディスクのサポート  
Hyper-V 2016 での Linux VM 用セキュアブートのサポート  
クラスター非対応の Hyper-V ホストに展開される非 HA SCVMM テンプレートのサポート  
VMware データストアクラスターのサポート

- **機能強化**

- データストアから仮想マシンのファイルを削除するときに、使用されていない仮想ハードディスクをクリーニングします。
- Hyper-V 2012 R2 および 2016 での第 2 世代仮想マシンのブートオプションとして複数のネットワークアダプター、仮想ハードディスクインスタンスをサポートします。
- 異なる SCSI コントローラーに複数の仮想ハードディスクの追加をサポートします。

- サポートされている Hyper-V ホスト上に存在する仮想マシンの静的な MAC アドレスの設定をサポートします。
- 適切な SCSI コントローラータイプの変更または表示をサポートします (VMware 準仮想化、LSI Logic Parallel、LSI Logic SAS、Buslogic Parallel)。

## 前提条件

- 今回のリリースに関するハードウェア、ファームウェア、およびソフトウェア要件のリストについては、*HPE Insight Management サポートマトリックス*を参照してください。
- インストールとアップグレードの前提条件については、*HPE Insight Management サポートマトリックス*を参照してください。
- 廃止されたハードウェアとソフトウェアは、*HPE Insight Management サポートマトリックス*に示されていません。

これらのドキュメントは、[Hewlett Packard Enterprise Information Library](#) から入手できます。

## 問題と推奨処置

以下では、このリリースの問題と制限事項について、HPE Insight Control 製品または機能領域別にリストします。以下のカテゴリが使用されます。製品領域に制限事項や問題がない場合、そのカテゴリは記載されていません。

- |              |                                  |
|--------------|----------------------------------|
| <b>制限事項</b>  | このリリースで実装されている機能の制限事項。           |
| <b>重要な問題</b> | このリリースの機能および操作性に著しく影響する可能性のある問題。 |
| <b>軽度な問題</b> | 確認できるものの、機能または操作性に著しい影響は及ぼさない問題。 |

## HPE Insight Control 電力管理

### 制限事項

- **Nano サーバーの正常または強制的なシャットダウンが失敗する**  
Nano Server 2016 の現在のバージョンでは、Open SSh.exe ソフトウェアインストールをサポートしていません。そのため、Nano サーバーでの HPE Insight Control 電力管理の正常または強制的なシャットダウンはいずれも失敗します。
- **iPDU で IPv6 がサポートされないことによる IC Power の制限**  
iPDU では IPv6 がサポートされないため、IPv6 で接続している場合は、IC 電力管理に関して次の制限があります。  
iPDU が IPv6 アドレスのみで構成されている場合、Intelligent Power 検出機能はサポートされません。
  - iPDU、その負荷セグメント、およびコンセントが表示されません。これらの電源供給デバイスの電源情報およびレポートは利用できません。
  - iPDU コンセントの電源の有効/無効化はサポートされません。
  - iPDU の UID LED の電源投入と切断はサポートされません。

### 推奨処置

iPDU が IPv6 アドレスで検出されても、次の電力管理機能を使用できますが、**デバイスが iPDU に接続されている場合は、デバイス（以下に示しています）を手動で検出する必要があります。**

1. ラック内のラック、システム/デバイスのレイアウトの視覚化。
2. ラック、システム/デバイス、および C-Class エンクロージャーの電源情報の表示。

3. システム（サーバー/エンクロージャー）のレポート/エクスポートレポートの表示。
4. 消費電力上限の設定、パワーレギュレーターモードの変更、システム（サーバー/エンクロージャー）の電源/温度データの更新。

---

**注記:**

次の例外を除いて、すべての機能がサポートされます。

- ProLiant 100 の電源操作はサポートされません。
- SL シリーズサーバーのシャーシノードの関連付けはサポートされません。
- IPv6 のみのホストで Local VM を適切にシャットダウンすることはサポートされません。
- iPDU が IPv6 アドレスのみで構成されている場合、Intelligent Power 検出機能はサポートされません。

---

- **Data Center Power Control (DCPC) はシステムのプライマリアドレスでのみ動作する**

DCPC はシステムのプライマリアドレスでのみ動作します。プライマリアドレス以外のシステムを検出することはできません。

**推奨処置**

DCPC でルールを作成するときに、ターゲットノードのプライマリ IP アドレスを指定します。

- **電力供給デバイスでは、他の解決可能なホスト名と競合する解決可能なホスト名を使用しないでください。**

電力供給デバイスは、データセンター内にある、IP アドレスに解決可能な他のホスト名と競合する名前（またはホスト名）を使用できません（その名前が HPE SIM で検出されるかどうかを問いません）。電力供給デバイスが解決可能なホスト名で作成された場合は、HPE SIM はこの IP アドレスで検出を開始します。その場合、電力供給デバイスを表示しようと試みる電力管理分析ビューに次のエラーメッセージが表示される場合があります。

```
Circuit {Name} does not exist.
```

**推奨処置**

この状況を修正するには、以下を実行して、**{Name}** のシステムタイプを修正して電力供給デバイスにする必要があります。

1. HPE Systems Insight Manager の検索ボックスに、**{Name}** と入力して **{Name}** のシステムページを見つけ、**{Name}** へのリンクをクリックします。
2. ツール&リンクタブをクリックします。
3. システムプロパティの編集リンクをクリックします。
4. システムタイプ: オプションを電力供給デバイスに変更します。
5. 検出、識別、データ収集プロセスがこれらのシステムプロパティを変更しないがチェックされていることを確認します。
6. OK をクリックします。

- **Internet Explorer 7 と Adobe Flex 間の非互換性**

ルールの定義ページにシステム名でターゲットを入力するとき、システムが検出可能かどうかを判定するために HPE Systems Insight Manager の左パネルにある検索ボックスをクリックし、データセンター電力制御のターゲットボックスをクリックして検出されるシステム名を入力します。テキストフィールドにアクセスできなくなります。

---

**注記:**

この問題は、ProLiant システムのみに適用されます。

---

**推奨処置**

サポートされている別のブラウザを使用してください。

## 重要な問題

- 2つ以上の（複数の）サーバーが選択されていると、電力/温度ページの表示が不完全になる

複数のサーバーまたはサーバーの集合を選択し、レポート > 電力管理 > 電力/温度データの表示の操作を行って電力/温度のデータまたはグラフを表示しようとする、電力/温度データの表示ページ全体とグラフが表示されません。グラフの設定とグラフの一部が表示されるだけで、ページの残りの部分は空白です。

### 推奨処置

この問題を解決するには、以下の手順に従ってください。

- ページのタブをクリックするか、グラフを完全に表示するページを右クリックして保存します。
- 電力管理操作を設定/管理するには、メニューオプションを使用してタスクを実行します。

または、電力/温度データの表示ページのグラフタブを閉じて電力管理アクションタブを表示すると、電力管理アクションタブを展開して関連するすべての操作を実行できます。

- 「スケジュール済みタスク」のリストの下にパワーレギュレーターまたは消費電力上限に対するスケジュール済みタスクが表示されない、または編集できない

HPE Insight Control 電力管理を使用してパワーレギュレーターまたは消費電力上限タスクをスケジュールリングした場合、HPE Insight Control 電力管理の新しいバージョンに CMS をアップグレードした後、タスクが「スケジュール済みタスク」リストに表示されない場合があります。またはタスクを編集しようとするとき、エラーになる場合があります。

### 推奨処置

既存のパワーレギュレーターまたは消費電力上限タスクを削除し、新しいタスクをスケジュールリングします。

- 電力/温度グラフに、エラーメッセージや正しくないグラフが表示される

グラフの再表示やデータの更新を短時間に連続で何回も行うと、電力/温度グラフにエラーメッセージや正しくないグラフが表示されます。

### 推奨処置

グラフの再表示やデータの更新を、短時間に連続で何回も行わないでください。

## 軽度な問題

- ラックやデータセンターについて電力データの収集がすぐには発生しない

### 推奨処置

管理対象になっていないノードについての電力データ情報を受け取るには、次のいずれかの操作を実行します。

- レポート > 電力管理 > 電力履歴の計算メニューオプションを使用して電力履歴を計算します。
- 電力/温度データの表示ページで、データの更新をクリックして、管理対象外ノードのデータを更新します。

- データセンターまたはラックを構築/編集しているときに Web ブラウザーがクラッシュする

データセンターまたはラックを構築/編集しているときに Web ブラウザーがクラッシュします。Mozilla Firefox のクラッシュ情報ダイアログ (about:crashes) に、次の署名が含まれている場合があります。

Caused by a plugin: Shockwave Flash (npswf32.dll)

### 推奨処置

<http://www.get.adobe.com/flashplayer> からサポートされるバージョンの Adobe Flash プレイヤーをダウンロードし、インストールしてください。

- 強制的な方法でも正しい手順による方法でもホストおよびゲストをシャットダウンできない

VMware ESXi のいくつかのバージョンは SSH 機能をサポートしません。ゲストまたはホストを手動でシャットダウンする必要があります。

#### 推奨処置

電力管理が VMware vCenter に完全に統合されるまで、ホストおよびゲストの電源をオン/オフできます。

- **複数のブラウザーインスタンスを開いて同じユーザーセッションを共有すると、表示されるシステム詳細が一致しない**

複数のブラウザーウィンドウを開いて異なるシステムを表示し、これらのブラウザーインスタンスが同じブラウザーセッションを共有している場合、一部のブラウザーインスタンスに表示されるシステム詳細データが一致しない場合があります。

#### 推奨処置

一致しないシステム詳細を表示しているブラウザーウィンドウを更新します。別のブラウザーセッションを使用して、HPE Systems Insight Manager を起動し、サインインします。

- Microsoft Internet Explorer 8 (IE8) の場合は、**ファイル > 新規セッション**をクリックして新しいブラウザーセッションを開始します。
  - Mozilla Firefox の場合は、別々のプロファイルを使用して複数のブラウザーセッションを開始します。たとえば、`firefox.exe -no-remote -P profile_name` と入力します。
- **CMS と Onboard Administrator 間の時間差が 24 時間を超えると、グラフとレポートを表示できない**

CMS と管理対象ノード間の時間差が 24 時間を超えると、HPE Insight Control 電力管理は、電力/使用量/温度のグラフを表示できません。ただし、データ収集ステータスは正常と報告されます。電力データは、管理対象ノードの時間に基づいて格納されます。

#### 推奨処置

CMS と管理対象ノード上の日時がそれぞれのタイムゾーンと一致しない場合は、それぞれのタイムゾーンに合わせて日時を変更してください。

- **電力管理のアンインストールの直後、HPE Systems Insight Manager が、インストールされている HPE Insight Control 電力管理を認識しない場合がある**

HP-UX から HPE Insight Control 電力管理をアンインストールすると、HPE Systems Insight Manager が再起動されます。電力管理をアンインストールした直後にインストールすると、HPE Systems Insight Manager が完全に再起動されていない場合、電力管理は正常にインストールされますが、電力管理がインストールされていることを HPE Systems Insight Manager が認識しない場合があります。

#### 推奨処置

電力管理をインストールする前に、`mxstatus` を使用して HPE Systems Insight Manager が完全に再起動されていることを確認します。`mxstop` および `mxstart` オプションを使用して、インストール対象ツールをインストールします。

- **Crystal Reports: 日本語の場合、データセンタービュー内のラックが正しくない色で表示される**

これらのレポートのデータセンタービューページには、列と行にデータセンター内の各ラックが表示されます。列と行は、そのラック内にある機器で記録された最高温度を示す色で表示されます。最高温度値もビューに表示されます。

日本語でレポートを実行すると、温度が色に反映されず、ランダムな色で表示されます。ただし日本語レポートでも、温度は正しい値で表示されます。

#### 推奨処置

英語でレポートを実行するか、ラックの色は無視して、ラックに表示される温度値のみを参照するようにします。

- **HPE Insight Control 電力管理で消費電力が実際より少なく報告され、電力の大幅低下が表示されることがある**

ラックやデータセンターの電力履歴を表示する際、電力/温度グラフに、消費電力が実際の使用量より少なく、段階的に大幅に低下しているかのように表示される場合があります。ただし、グラフ中の電力低下がすべて過小報告によるものではないため、すべての電力低下が誤りであると判断することはできません。

#### 推奨処置

計算された電力履歴のクリアツールを使って、ラック、データセンターなどの履歴を消去します。次に、電力履歴の計算を使用して電力の履歴データを集約しなおします。再集約が完了すると、電力/温度ページで修正された結果を確認できます。

## HPE Insight Control サーバー移行

### 制限事項

- UEFI モードでの任意の Linux OS の X2V 移行がサポートされない
- Logical Volume Manager (LVM) を持つソースの X2V 移行

X2V 移行中に、論理ボリューム管理を持つソースを移行し、ターゲット VM を自動ブートするとき、移行ウィザードのステップ 4 で、未割り当てフィールドに最小 40 MB を追加します。

- Linux 移行の前提条件

Linux 移行の前提条件を以下に示します。

1. RHEL 7.x の移行に必要な場合、glibc、nss-softokn-freebl、dmraid、hdparm、grub2-efi といったパッケージなどの標準ライブラリをインストールします。
2. iSCSI を使用した RHEL ベースの移行の場合、iscsi-initiator-utils および dracut-network は移行前にソースにインストールされます。
3. Linux 移行を開始する前に、以下の rpm パッケージをインストールします。
  - SLES 移行の場合：
    - glibc の 32 ビットパッケージ
    - libncurses の 32 ビットパッケージ
  - RHEL 移行の場合：
    - glibc の 32 ビットパッケージ
    - ncurses-libs の 32 ビットパッケージ

- RHEL または SLES の移行後に、ターゲット OS がスプラッシュ画面でスタックしてしまう

RHEL または SLES の移行後に、ターゲット OS がスプラッシュ画面でスタックしてしまいます。これは、一部のグラフィックスドライバーがブート時にロードできないという RHEL および SLES の既知の問題です。

#### 推奨処置

ターゲットをテキストモードで起動します。

- SLES の場合、ターゲットサーバーでの移行後の再起動時、および grub メニューでのブートプロセス時に、`splash=silent quiet` ブートパラメーターを削除して、起動を続行します。
- RHEL の場合、ターゲットサーバーでの移行後の再起動時、および grub メニューでのブートプロセス時に、`rhgb` ブートパラメーターを削除して、起動を続行します。
- 以降のブートに対する恒久的な解決策として、`/boot/grub` または `/boot/grub2` で、`grub.cfg/``menu.lst` から `splash=silent quiet` および `rhgb` パラメーターを削除します。

- API と CLI の制限事項/要件

API の `migrateToProliant/migrateToVM` を使用する場合は、プライマリパーティションの移行だけがサポートされます。

#### 要件

migrateToVM API の場合は、移行先で自動ブートオプションを使って移行を実行する際、`-targetVmName` は必須の引数です。

- **ソースサーバーでの移行前の要件**
  1. EFI モードでターゲットサーバーに SLES 12.x を移行する前に、ソースサーバーに `grub2-efi-x86_64` パッケージをインストールする必要があります。
  2. EFI モードでターゲットサーバーに RHEL 7.x を移行する前に、ソースサーバーに `grub2-efi` パッケージをインストールする必要があります。
- “、:、またはの文字を含むパスワードを使った、CMS からソースサーバーへのエージェントの起動はサポートされない

Windows ソースエージェントのデプロイメントでは、“、:、またはの文字を含む管理者パスワードはサポートされません。

## 重要な問題

- **X2P の実行中に移行を成功した後 Smart アレイ P440/P440ar コントローラー上で Windows 2016 オペレーティングシステムが起動しない**

Windows 2016 の移行が正常に完了した後、オペレーティングシステムが Smart アレイ P440/P440ar で起動しません。

### 推奨処置

回避策はありません。Windows 2016 を移行するために、その他のサポートされているコントローラーを使用してください。

- **Windows 2016 から ESXi ゲストへの X2V の移行時、ターゲット VM の自動ブート中に VM の作成が失敗する**

### 推奨処置

`smptbootcd-v` を使用して、手動で VM を作成および起動します。移行 UI のページ 3 で `bootCD` が起動したときに IP を指定して、移行を続行します。

- **移行が正常に完了した後、RHEL バージョン 6.5、6.6、6.7 (x64) オペレーティングシステムが Smart アレイ P712 で起動しない**

RHEL バージョン 6.5 (x64) の移行が正常に完了した後、オペレーティングシステムが Smart アレイ P712 で起動しません。

### 推奨処置

`/boot/grub` の場所に配置された、ソースサーバーファイル `grub.conf` にあるブートパラメーター `intel_iommu = on` および `amd_iommu=on present` を削除して、移行を繰り返します。

- **P840ar コントローラー上での移行後に、SLES 12 および RHEL7.x を再起動してもオペレーティングシステムが起動しない**

P840ar コントローラー上で SLES 12 移行後環境を再起動しても、オペレーティングシステムが起動しません。

P840ar コントローラーを使用して構成された HPE ProLiant XL420 Gen 9 サーバー上で、RHEL 7.x x64 OS を使用した X2P 移行を開始します。移行の成功後、カーネルパニックは P840ar コントローラーを搭載したターゲットサーバー上で識別されます。

### 推奨処置

移行後の再起動時に、カーネルパラメーター `modprobe.blacklist=hpdsa` を追加して起動を続行します。その後の起動用の恒久的なソリューションとして、`modprobe.blacklist=hpdsa` パラメーターを `grub.cfg` (grub config) ファイル (`/boot/grub2/grub.cfg` ディレクトリにあります) に追加します。

- **移行ウィザードのステップ 5 とステップ 7 でコントローラー名が表示されない**

以下のコントローラーについてコントローラー名が表示されません。

- HPE H244br Smart ホストバスアダプター
  - HPE Smart アレイ P246br コントローラー
  - HPE Smart アレイ P840ar コントローラー
  - HPE Smart アレイ P440ar コントローラー
  - HPE H240ar Smart ホストバスアダプター
  - HPE Smart アレイ P244br コントローラー
  - HPE Smart アレイ P240nr コントローラー
  - HPE Smart アレイ P420i コントローラー
  - UEFI モードで、HPE Smart アレイ B140i コントローラー名が表示されない
- **コントローラー名が移行ウィザードに表示されない**

#### 原因

原因は、次の点にあります。

1. HPE Smart アレイ P246br または HPE Smart アレイ P840i コントローラーでは、コントローラー名は表示されない。
2. HPE Smart Storage Administrator (HPE SSA) から変更を行った後、コントローラー名は移行ウィザードで検出されない。

P246br または P840i コントローラーおよび IP 2.10 を搭載したターゲットサーバーを準備します。論理ドライブは作成しないでください。ターゲット上で自動ブートを実行し、移行ウィザードのステップ 5 まで進みます。ディスクがウィザードで検出されていないことを確認します。ここで、ターゲットエージェントページから HPE SSA を使用して論理ドライブを作成し、移行ウィザードページを更新します。HPE SSA を使用して作成した論理ドライブが検出されるようになったことを確認します。ただし、移行ウィザードでは、コントローラー名は検出されません。

#### 推奨処置

コントローラー名が表示されない場合でも、移行を継続できます。複数のコントローラーが存在する場合、混乱を避けるためにデバイス名を合わせます。たとえば、ウィザードに表示される `/dev/sda` とディスクサイズを、ターゲットの UI に表示されるものと合わせます。

- **T-Boot パッケージがインストールされた RHEL 6.5 および RHEL 6.6 (64 ビット版) の移行が成功した後、EFI モードの ESXi でオペレーティングシステムが起動しない**

EFI モードで構成されたターゲットの ESXi 上で、RHEL 6.5 および RHEL 6.6 (64 ビット版) の X2V 移行を起動します。移行が成功した後、ターゲットの ESXi でオペレーティングシステムが起動しません。

#### 推奨処置

T-Boot パッケージがインストールされた EFI モードの RHEL 6.5 および RHEL 6.6 (64 ビット版) はサポートされていません。

- **EFI モードでの自動ブート後、B140i コントローラーでディスクが検出されない**

レガシモードのサーバーで EFI モードで自動ブートが実行されると、B140i コントローラーのウィザードのステップ 5 で自動ブートを実行した後に、ディスクが検出されません。

#### 推奨処置

自動ブートを開始する前に、サーバーが EFI ブートモードに設定されていることを確認します。

- **SAN の移行後、ターゲットサーバーにデータが反映されない**

2 つのコントローラー (プライマリパーティションと拡張パーティションが別々のコントローラー上にある) を持つソースサーバーから 2 つのコントローラーを持つターゲットサーバーへの Linux OS の移行を開始します。

移行の成功後、OS はブートしますが、セカンダリコントローラー上のデータがターゲットサーバーに反映されない場合があります。

#### 推奨処置



移行後にターゲットサーバーをブートする際に、セカンダリコントローラーのディスクをマウントしてみてください。

- **RHEL 6.6 OS のブート時にカーネルパニックが発生する**

RHEL 6.6 の移行時に、ソース OS が iSCSI ディスクにインストールされ、ターゲットサーバーがローカルのストレージコントローラーを備えている場合、移行後にターゲットサーバーをブートする際にカーネルパニックが発生することがあります。

**推奨処置**

grub メニューでの OS のブート中に、*iscsi\_firmware* ブートパラメーターを削除し、ブートを続行します。その後のブート用の恒久的なソリューションとしては、*/boot/grub2/grub.cfg* (grub config) ファイルから、*iscsi\_firmware* パラメーターを削除します。

- **移行ウィザードのステップ 5 で iSCSI ディスクとして構成された HPE FlexFabric 10 Gb 2 ポート 554FLR-SFP+アダプターを検出できない**

任意のサーバーから iSCSI ディスクとして構成された HPE FlexFabric 10 Gb 2 ポート 554FLR-SFP+アダプターを搭載する任意のサポートされる ProLiant Gen8 サーバーへ任意の OS の X2P 移行を開始し、ステップ 3 で自動ブートを開始すると、移行ウィザードのステップ 5 でアダプターが検出されず、次のエラーメッセージが表示されます。

HPE Insight Control サーバー移行は、ターゲットサーバー上にディスクを見つけることができませんでした。

**推奨処置**

RBSU で IOMMU を無効にしてください。

- **ターゲットディスクで既存の論理ボリュームが消去されると、移行後にターゲットサーバーでオペレーティングシステムが起動に失敗する**

HPE Insight Control サーバー移行を実行した後、ターゲットサーバーで OS が起動しないことがあります。この問題は、サーバーが再目的化され、次の条件が満たされている場合に発生します。

この問題は、プライマリストレージコントローラーに接続されているディスクで、以前に RAID モードで設定されているコントローラーを使用して論理ボリュームが作成され、そのボリュームが消去されていない場合に発生することがあります。たとえば、過去に、サーバーが RAID モードのコントローラーを使用するように設定され、そのコントローラー上にいくつかの論理ボリュームが作成されたとします。今、同じコントローラーが非 RAID モードで構成されるとします。このとき、論理ボリュームは削除されていないとします。この状態で、移行が実行されると OS は起動に失敗します。このサーバーがディスクからの起動をいつまでも試みるため、無限ループに入ります。

**推奨処置**

次のいずれかの操作を実行します。

- コントローラーを RAID モードで構成してすべての論理ボリュームを削除し、次に、コントローラーを非 RAID モードに構成しなおして、移行を再び実行します。
- サーバーをコントローラーの RAID モードを使用するように設定し、移行を実行します。

- **一部の Microsoft Windows サーバーで、デジタル署名されたアプリケーションの確認が失敗する場合があります**

Microsoft Windows サーバーに VeriSign Class 3 Public Primary Certification Authority - G5 ルート証明書が含まれないと、アプリケーションのデジタル署名確認が失敗します。Microsoft からのルート証明書の最新アップデートが含まれないサーバーでは、確認が失敗します。Windows Update が無効になっていたり、サーバーがインターネットに接続されていなかったりすると、最新アップデートを使用できない場合があります。

**推奨処置**

VeriSign の Web サイト (英語) を参照して、VeriSign の手順を実行します。

- **SIM での再検出の動作が不正である**

ウィザードのステップ 6 で SIM の再検出オプションを選択した後に、失敗した検出のログが出力され、IP アドレスが検出されません。

## 推奨処置

HPE Insight Control サーバー移行インストールディレクトリ (C:\Program Files (x86)\HP\Insight Control server migration\bin) にある hpvmm.conf ファイルを編集して、VMwareDisconnectTimeout = 90000 を追加します。

## 軽度な問題

- **Windows ドメインコントローラーを移行すると、ブルースクリーンエラーが発生し、エラー番号 0xc0000001 が生成されることがある**

B110i G7 で構成されている ML110 G7 で、プライマリドメインコントローラーとして構成されている Windows 2008 SP2 x 32 の X2P 移行を開始すると、移行は成功しますが、その後にターゲットサーバーで BSOD (Blue Screen of Death) が発生します。

### 推奨処置

ディレクトリサービス復元モードでサーバーを再起動し、コマンドプロンプトで以下の各コマンドを実行します。

1. サーバーを再起動し、F8 キーを押します。ディレクトリサービス復元モードを選択します。
2. ローカル管理者のユーザー名とパスワードでログインし、コマンドプロンプトを開きます。
3. cd \windows\system32 と入力します。
4. NTDSUTIL と入力します。
5. activate instance NTDS と入力します。
6. files と入力します。

Jet エンジンが初期化できなかったことを示すエラーを確認したら、NTDSUTIL を終了します。

Jet エンジンエラーを修正するために、次の手順を実行します。

1. cd \ と入力します。
2. md backupad と入力します。
3. cd \windows\ntds と入力します。
4. copy ntds.dit c:\backupad と入力します。
5. cd \windows\system32 と入力します。
6. esentutl /g c:\windows\ntds\ntds.dit と入力します。

このコマンドにより、整合性チェックが実行されます。結果は、Jet データベースの破損を示します。

7. esentutl /p c:\windows\ntds\ntds.dit と入力します。

プロンプトに同意します。

8. cd \windows\ntds と入力します。
9. move \*.log c:\backupad と入力するか、またはログファイルを削除します。

以上で、修復は完了しました。

修復が成功したかどうかを確認するために、以下の各コマンドを入力します。

1. cd \windows\system32 と入力します。
2. ntdsutil と入力します。
3. activate instance ntds と入力します。
4. files と入力します。

エラーは検出されません。

5. info と入力します。

ファイル情報が表示されます。

- **RHEL 6.6 OS をターゲットサーバーに移行後、OS のブートで応答がない**

RHEL 6.6 OS をターゲットサーバーに移行後、OS のブートで反応がなく、次のメッセージが表示されます。

```
Starting udev: udevd[402]: GOTO 'pulseaudio_check_usb' has no matching label in:
'/lib/udev/rules.d/90-pulseaudio.rules' udevd[402]: GOTO 'pulseaudio_check_usb'
has no matching label in: '/lib/udev/rules.d/90-pulseaudio.rules.
```

詳しくは、[https://bugzilla.redhat.com/show\\_bug.cgi?id=1159711](https://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1159711) および <http://bugs.centos.org/view.php?id=7772> を参照してください。

#### 推奨処置

これは、RHEL 6.6 OS の移行の既知の問題です。

- **X2V 移行の実行中に、自動ブートの取り消しが許可されない**

Hyper-V をターゲット VM ホストとして X2V 移行の自動ブートを行う際に、**ステータス/ログの参照タブでキャンセル**をクリックすると、確認メッセージが表示されます。しかし、確認のために **OK** をクリックしても、自動ブートは取り消されません。

#### 推奨処置

ISO のコピーの進行中には、タスクを取り消すことはできません。VM の作成時には、タスクを取り消すことができます。

- **Qlogic iSCSI ストレージコントローラーでの RHEL 7.x および SLES 12 の移行後に、OS が起動せず、Dracut シェルで終了する**

#### 推奨処置

Qlogic iSCSI ストレージコントローラーの RHEL 7 OS でこの問題が確認された場合、起動時に grub メニューで、*rd.iscsi.firmware* ブートパラメーターを削除してブートを続行します。その後のブート用の恒久的なソリューションとしては、`/boot/grub2/grub.cfg` (grub config) ファイルから、*rd.iscsi.firmware* パラメーターを削除します。

- **CN1000Q 上の Red Hat Enterprise Linux 6.2 32 ビットインストール環境を移行後にブートすると約 20 分かかる**

#### 推奨処置

これは既知の問題であり、将来のリリースで修正されます。

- **1 台のディスク上の 14 を超えるパーティションについては、Windows の移行がサポートされない**

Windows OS で 14 以上のパーティションを選択すると、V2V 移行ウィザードのステップ 4 で次のエラーメッセージが表示されます。

ターゲットディスク<ターゲットディスク名>は、そのパーティションのリミットに達しています。別のディスクにこのディスク用に 1 つ以上の選択したボリュームグループの移行を試すか、一部のパーティション/ボリュームグループをスキップするためにパラメーターをアップデートしてください。

#### 推奨処置

1 台のディスクについて Windows 移行でサポートされるパーティションの最大数は 13 です。この問題を解決するには、次のいずれかの操作を実行します。

- このディスクについて選択した 1 つまたは複数のボリュームグループを別のディスクに移行できます。
- 移行ウィザードの**ステップ 2**に戻って、いくつかのパーティション/ボリュームグループの選択を解除します。

## HPE Insight Control サーバードプロビジョニング

### 注記:

RHEL 用の HPE Insight Control サーバードプロビジョニングの制限事項、重度の問題、軽度な問題すべては、RHEL KVM にも関係します。

## 制限事項

- ソフトウェア iSCSI SAN ディスクを使用した場合の SLES 12 SP1 の制限事項

iSCSI イニシエーターは IP アドレスを自動的に取得しないため、SLES 12 SP1 スクリプト式インストールのビルドプランはソフトウェア iSCSI SAN ディスクの認証に失敗する可能性があります。

この問題を解決するには、以下の手順を実行します。

1. サーバーページで `kernel_arguments` カスタム属性を作成し、値を `ifcfg=<PXE MAC Address>=dhcp` に設定します。
2. Synergy サーバーをサポートしている SLES 12 SP1 KISO を使用します。詳しくは、*HPE Insight Control サーバープロビジョニングのオンラインヘルプ*を参照してください。

カスタム属性の例：

名前：`kernel_arguments`

値：`ifcfg=4E:55:11:D0:00:0E=dhcp`

- OS ビルドプランのジョブログに非 ASCII 文字の文字化けが表示される

HPE ICsp は OS ビルドプランのジョブログに ASCII テキストのみを表示します。UTF-8 テキストのような非 ASCII テキストの場合は文字化けして表示されることがあります。

### 推奨処置

OS ビルドプランのジョブログを正しく表示するために、スクリプトおよびカスタム属性値に ASCII テキストを使用してください。

- VMware vSphere (ESXi) 5.x および 6.x の SAN (BFS) iSCSI 展開からのブートは、QLogic ベースのコンバージドネットワークアダプター (x3x) ではサポートされていません。たとえば、530FLB、630M などです

### 推奨処置

*VMware vSphere Support Matrix* を参照してください。

- HPE 3PAR StoreServ ストレージからのブートによるターゲットサーバーへの RHEL 6.6 のインストール中にエラーが発生する

HPE 3PAR StoreServ ストレージボリュームで SAN OS インストールから RHEL 6.6 ブートを実行する場合、Logical Volume Manager パーティションを自動的に作成するデフォルトの `autopart` オプションは失敗します。この問題は、Logical Volume Manager パーティションでのみ発生します。

### 推奨処置

インストールを完了するには、LVM を使用する場合にカスタムのパーティショニングオプションを使用し、`autopart` を使用する代わりに手動でパーティションテーブルサイズを作成します。`kickstart` ファイルの次の例では、カスタムのパーティショニングコマンドで `autopart` オプションが置き換えられています。

```
zerombr
clearpart --all --initlabel
part /boot --fstype=ext3 --size=512
## Uncomment below line if target is in UEFI mode
###part /boot/efi --fstype=efi --size=512
part / --fstype=ext3 --size=4096 --grow --maxsize=8192
part swap --recommended
```

---

**注記:**

- HPE 3PAR StoreServ ストレージを使用するとき、最小ブートパーティションのサイズは 256 MB です。
- この最小ブートパーティション制限は、RHEL 6.7 には該当しません。
- /var パーティションの作成は FCoE SAN 構成でサポートされていません。

- 
- **HPE 3PAR StoreServ ストレージからのブートによるターゲットサーバーへの SLES 12 のインストール中にエラーが発生する**

デフォルトのパーティショニングを使用して HPE 3PAR StoreServ ストレージボリューム上の SAN OS インストールから SLES 12 ブートを実行する場合、256 MB 未満の MBR パーティションが自動的に作成されるため、インストールは失敗します。

**推奨処置**

SLES12 `Autoyast` 構成ファイル内のカスタムパーティション設定を変更し、次の例に示すように MBR パーティションサイズを 256 MB 以上に設定します。

```
<partitioning config:type="list">
  <drive>
  <device>/dev/sda</device>
  <initialize config:type="boolean">>true</initialize>
  <partitions config:type="list">
  <partition>
  <mount>/boot</mount>
  <size>512mb</size>
  </partition>
  <partition>
  <mount>/</mount>
  <size>auto</size>
  </partition>
  <partition>
  <mount>swap</mount>
  <size>2gb</size>
  </partition>
  </partitions>
  </drive>
</partitioning>
```

- **SLES 11.3 をいずれかの Gen9 サーバーにインストールするには、ブート可能ドライバーキット (kISO) が必要**

SLES 11.3 をいずれかの ProLiant Gen9 サーバーにインストールするには、特別なブート可能ドライバーキット (旧名称 kISO) を、メディアサーバー上の SLES ディストリビューションに追加する必要があります。

**推奨処置**

メディアサーバー上の SLES ディストリビューションにブート可能ドライバーキットを追加するには、以下の手順を実行します。

1. <https://drivers.suse.com/hpe/HPE-ProLiant-Gen9/>にあるキットをダウンロードします。
2. ISO を開きます。
3. メディアサーバーで SLES 11.3 ディストリビューションのコピーを作成し、そのコピーを、適切な名前を指定したフォルダーに配置します。たとえば、`/Media/SLES-11SP3-kISO-x86_64` です。

## 注記:

このキットは Gen9 サーバーのみが使用するので、キットのオリジナルバージョンを保持することをお勧めします。

4. 手順 3 で作成した新しいフォルダーで、新しいレポジトリディレクトリの下に add-on ディレクトリを作成します。たとえば、Media/SLES-11SP3-kISO-x86\_64/addon を作成します。
5. add-on ディレクトリにキットの内容をコピーします。
6. 次のようにして、元のインストール用 kernel および initrd ファイルを、キットの add-on ディレクトリのもとと置き換えます。
  - a. addon/boot/x86\_64/loader/initrd to boot/x86\_64/loader/initrd をコピーします。
  - b. addon/boot/x86\_64/loader/linux to boot/x86\_64/loader/linux をコピーします。
7. アプライアンスの UI で SLES11 SP3 ビルドプランを検索し、名前を付けて保存を選択して編集可能な既存の SLES11 SP3 ビルドプランから OS ビルドプランを作成します。
8. 新しいビルドプランで Set Media Source ステップを編集し、新しいディレクトリを指すようにパラメーターを変更します。
9. 必要なすべてのドライバーはキットに含まれているため、ProLiant Drivers for SLES11 SP3 x64 ステップを削除します。
10. Embed files Initrd ステップのパラメーターフィールドから -s /tmp/dud を削除します。

### • Intelligent Provisioning V2.01 および SPP 2015.04 ファームウェアが備えられた Gen9 サーバー上で UEFI ESXi のインストールが失敗する

SPP の 2015.04 バージョンに更新され、Intelligent Provisioning V2.01 が稼働する Gen9 サーバーに、ファームウェアの非互換性があります。UEFI モードで VMware ESXi をインストールすると、ビルドプランは Add ESXi Boot Option To UEFI Boot Order ステップで失敗します。

#### 推奨処置

この問題を解決するには、以下のオプションを実行してください。

1. UEFI ブートメニューに他の OS がまだ存在しないサーバーに VMware ESXi をインストールする場合は、ビルドプランから Add ESXi Boot Option To UEFI Boot Order ステップを削除してからやり直してください。
  2. または、非互換性を修正するために Intelligent Provisioning をバージョン 2.10 にアップグレードする必要があります。
- RHEL ドライバー名を変更すると、別のドライバーパッケージを使用するときに問題が生じる場合がある
- アプライアンスに付属の 2014.09.0 RHEL ドライバーパッケージでは、Mellanox ドライバーの名前が以前のドライバーリリースから変更されています。HPE が提供する RHEL kickstart ファイルは、新しいドライバー名に合わせて更新されます。ただし、新しいドライバーパッケージで古い kickstart ファイルを使用したり、古いドライバーパッケージで新しい kickstart ファイルを使用したりすると、ビルドプランは失敗します。

#### 推奨処置

Kickstart ファイルで呼び出されたドライバーが、使用しているドライバーパッケージのバージョンに一致していることを確認します。

- RHEL ドライバーパッケージバージョン 2014.09.0 - ドライバー名は kmod-mlnx-en です。
  - 2014.09.0 以前の RHEL ドライバーパッケージ - ドライバー名は kmod-mellanox-mlnx-en です。
- VMware ESXi 5.1 Update 2 インストールが Read only filesystem エラーで失敗する場合がある
- サーバーおよびストレージカードの特定の組み合わせでは、VMware ESXi 5.1 Update 2 のインストール時に Read only filesystem エラーが発生する場合があります。

#### 推奨処置

この問題は VMware ESXi 5.1 Update 2 にのみ存在するため、VMware ESXi 5.1 Update 3 または VMware ESXi 5.5 Update 2 を使用します。

## 重要な問題

- **iSCSI SAN を使用した Qlogic NX2 コンバージドネットワークアダプター (CNA) で Windows 2012 以前の スクリプト式インストールが失敗する場合があります**

Qlogic NX2 コンバージドネットワークアダプター (CNA) とともに Windows Server 2008、Windows Server 2008 R2、または Windows Server 2012 のオペレーティングシステムを実行するサーバーで、iSCSI の起動後、デュアルポートアダプターの第二 NIC ポートが機能しなくなります。デバイスマネージャー内でアダプターに感嘆符 (黄色) が表示されます。

Windows Server 2012 R2 では、この問題は確認されていません。

### 推奨処置

Windows Server x64 用の HPE QLogic NX2 10/20 GbE マルチファンクシヨンドライバーを再インストールすると、デバイスマネージャーで黄色の感嘆符がクリアされます。

Windows スクリプト式インストールのビルドプランを実装するには、以下の手順に従ってください。

1. Windows Server x64 用の HPE QLogic NX2 10/20 GbE マルチファンクシヨンドライバーをメディアサーバーの win2012-x64-en\_us フォルダーにコピーします。
  - 適切なコンポーネントについては、Service Pack for ProLiant の Content.html を参照してください。たとえば、SPP 2016.10.0 では cp030253.exe になります。
2. HPE Insight Control サーバープロビジョニングのスクリプトページで、次の内容の Windows.BAT タイプのスクリプトを作成します。

```
REM Copy file from media location to $oem$
copy z:\Media\win2012-x64-en_us\cp*.exe @SystemDrive:c@:\$oem$
REM Add the component to SetupComplete_new.cmd file.
echo cd @SystemDrive:c@:\$oem$\ > @SystemDrive:c@:\Windows\Setup\Scripts\
\SetupComplete_new.cmd
echo cp030253.exe /s /f >> @SystemDrive:c@:\Windows\Setup\Scripts\
\SetupComplete_new.cmd
REM add an empty line
echo >> @SystemDrive:c@:\Windows\Setup\Scripts\SetupComplete_new.cmd
REM Append the agent install command from SetupComplete.cmd to New file.
type @SystemDrive:c@:\Windows\Setup\Scripts\SetupComplete.cmd >>
@SystemDrive:c@:\Windows\Setup\Scripts\SetupComplete_new.cmd
REM Overwrite the original SetupComplete file.
type @SystemDrive:c@:\Windows\Setup\Scripts\SetupComplete_new.cmd >
@SystemDrive:c@:\Windows\Setup\Scripts\SetupComplete.cmd
```

3. ProLiant SW - Windows xxxx Scripted Install OS ビルドプランのコピーを保存します。
  4. **アクション > 編集** を選択します。
  5. HP SA エージェントの統合後に、手順 2 で作成した Windows.BAT スクリプトを追加します。
  6. OS ビルドプランを保存し、ターゲット上でビルドプランを再実行します。
- **レガシブートモードでの Windows スクリプト式 Boot From SAN (BFS) FCoE インストールが失敗する場合があります (PXE を使用しないで HPE FlexFabric 10 Gb 2 ポート 533FLR-T アダプターを使用)**

スクリプト式インストール中、サーバーコンソールにオレンジ色の画面が表示され、次のエラーメッセージとともに OS ビルドプランが失敗します。Install and boot into local WinPE failed with exit code 1。

### 推奨処置

この問題を解決するには、以下のいずれかを実行します。

- ターゲットサーバーでレガシブートモードの代わりにUEFI ブートモードを使用する。
- レガシブートモードでのインストールの起動時に、`--method=network` をブーステップに追加する。
- **Windows OS ビルドプランが partition disk for Windows failed with exit code 87 エラーにより失敗する場合があります**

次の条件があるため、Windows を繰り返し展開している間に誤ったディスク番号値が SystemDiskNumber に格納される可能性があります。

- UEFI とレガシの間でのサーバーブートモードの切り替え
- ストレージ構成の変更

#### 推奨処置

OS ビルドプランが適切なディスクを自動的に決定できるように、サーバーページの SystemDiskNumber カスタム属性を削除します。

- **一度に 8 つ以上の OS 展開を含む単一のジョブが 249 エラーのために失敗することがある**

単一のジョブを使用して一度に 8 つを超える OS 展開を実行すると、ネットワークパフォーマンスが原因で失敗することがあります。

#### 推奨処置

単一のジョブで 8 つ以下の OS 展開を実行します。

- **Ubuntu 14.04 のインストールで静的 IP アドレスを使用する場合、DNS IP アドレスを hpsa\_netconfig カスタム属性に指定する**

静的 IP アドレスを使用するとき、インストール前のネットワークの個別設定機能では、DNS の IP アドレスを hpsa\_netconfig カスタム属性に指定する必要があります。

Ubuntu の最小のオペレーティングシステム要件について詳しくは、[HPE Servers Support and Certification Matrices](#) を参照してください。

- **サーバーを追加するための REST API コールを頻繁に行うと、失敗する場合があります**

前のサーバー追加から 30 秒以内に REST API を呼び出すと、タイムアウトで失敗する場合があります。

*HPE Insight Control サーバープロビジョニングのオンラインヘルプ*に示されているように、20 秒の遅れでも問題が発生することがあります。

#### 推奨処置

複数のサーバーをアプライアンスに追加する場合は、次の REST API コールまでに、最低でも 30 秒間遅らせる必要があります。

- **SLES 12 のインストールがモニターのインストールステップで失敗する場合があります、ターゲットが自動インストールスクリプトの実行でハングアップする**

多くの展開を同時に行うと、HPE Server Automation エージェントとアプライアンスとの通信に遅延が発生します。

#### 推奨処置

OS ビルドプランを再試行します。

- **Windows 2012 の展開中に ROSH エラーが観測される**

多くの展開を同時に行うと、HPE Server Automation エージェントとアプライアンスとの通信に遅延が発生します。

#### 推奨処置

OS ビルドプランを再試行します。

- **RHEL 7.1 が NC551i/NC553i および HPE 3PAR StoreServ ストレージで断続的にハングする**



HPE 3PAR StoreServ ストレージに接続されている NC551i または NC553i コントローラーを使用して、BL460cG7 または BL490cG7 に RHEL 7.1 をインストールすると、インストール画面がハングすることがあります。

### 推奨処置

RHEL 7.1 の `kickstart` ファイルを編集し、次のスクリプトを含めます。

```
%pre
cp /etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg <depl-nic> \
/etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-ksdev0
sed -i 's/<depl-nic>/ksdev0/g
/etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-ksdev0
sleep 2
/etc/init.d/network restart dhclient en<depl-nic>
%end
```

<depl-nic>は、`enp2s0f0` などの展開 NIC の名前に置き換えることができます。

#### • Verify Supported Boot Modes が失敗することがある

OS ビルドプランを継続的に実行しているとき、場合によって **Verify Supported Boot** モードが失敗することがあります。

### 推奨処置

サーバーを再起動し、POST サイクルが完了したことを確認します。サーバーの電源をオフにし、OS の展開を再試行します。

#### • ステップ 18 で、SLES 12 OS ビルドプランが HPE Server Automation エージェントの待機で失敗する

直接接続されているストレージを 650M CNA および HPE 3PAR StoreServ P7200 とともに使用すると、SLES 12 がインストールの開始に失敗します。

ターゲットからのエージェントが、割り当てられた時間内に HPE Server Automation サーバーに接続しないときに、エラー 120 タイムアウトが発生します。

タイムアウトの原因は次のとおりです。

- HPE Server Automation エージェントの障害。これにはエージェントを正しくインストールできないこと、エージェントを正常に起動できないこと、誤ったバージョンの HPE Server Automation エージェントがインストールされていることなどがあります。
- ネットワーク障害。これにはターゲットとサーバーが異なる VLAN にあること、IP が NIC に割り当てられていないこと、NIC が接続されていないこと、VLAN 構成が間違っていることなどがあります。
- ターゲットまたはスイッチのポート 3001 のファイアウォール設定がブロックされていることなど。
- ターゲットサーバーのステータス。これにはサーバーがブート中にハングアップしたこと、サーバーの電源が切断されていること、サーバーのブート順序が間違っていること、BIOS 設定が無効であること、BFS 構成が無効であることなどがあります。
- エージェントがサーバーに接続することを妨げる他のすべての障害。

### 推奨処置

OS 展開を再試行します。

#### • PXE RHEL 6.6 で ICsp 7.5 および ICsp 7.5 Update 1 を使用したオフラインファームウェアアップデートが失敗する

G7/G6/G5 サーバーで OS ビルドプランを使用したオフラインファームウェアアップデートが失敗し、OS ビルドプランログに以下のメッセージが表示されます。

```
ICsp file ../../preinstaller/CP024067.scexe execution failed with return code [1] !!
```

HPE ICsp は、ICsp 7.4.1 以前の PXE サービス OS に別のライブラリを追加するため、SPP 2015.04、2015.06、および 2015.10 に PXE 修復コンポーネントを提供しています。これは、旧バージョンでの完全な

SPP 展開をサポートするために用意されています。ICsp 7.5 は、サービス OS の 1 つとして RHEL 6.5 (旧バージョンで使用)ではなく RHEL 6.6 を使用します。SPP 内の 7.4.1 コンポーネントが RHEL 6.6 をサポートしないため、ICsp 7.5 は検証中に失敗します。

ICsp 7.5.0 では、デフォルトのサービス OS は RHEL 7.1 であり、RHEL 6.6 ではありません。RHEL 6.6 は古いサーバー (G7 以前) でのみ使用されます。

#### 推奨処置

次の手順を実行します。

1. HPE ICsp メディアサーバーの spp/<SPP version>/hp/preinstaller フォルダから CP024067.scexe ファイルを削除します。
  2. OS ビルドプランを再実行します。
- ディレクトリサーバーを使用するとき、グループ名は英語でなければならない  
アプライアンスに追加された英語以外のグループ名は、表示および削除できません。

#### 推奨処置

HPE Insight Control サーバープロビジョニングで使用する予定のすべてのグループ名を英語にします。

### 軽度な問題

- ProLiant Drivers for Windows 20XX - 2016.10.0 パッケージを使用した Windows スクリプト式インストーラで hpqilo3chif ドライバーが正しくロードされない場合がある (hpqilo3chif ドライバーは iLO からデータを収集するために AMS および HPE Insight Management Agents によって使用されます)

Service Pack ProLiant 2016.10.0 をインストールして、本番環境の Windows OS で適切なドライバーを更新します。

- OS ビルドプランは、`java.net.SocketException: Connection reset` メッセージを書き込んで失敗する場合があります

HPE Insight Control サーバープロビジョニングで使われる iLO 通信ライブラリは AES 暗号化をサポートしません。このため、ターゲットサーバーで強制 AES/3DES 暗号化オプションを有効にすると (iLO > セキュリティ > 暗号化設定)、通信が切断され、ソケットの例外が報告されます。

#### 推奨処置

ターゲットサーバーで強制 AES/3DES 暗号化を無効にします (iLO > セキュリティ > 暗号化設定)。

- ネットワークの個別設定機能がサポートするのは英語版オペレーティングシステムのみ  
更新されたターゲットサーバーネットワークの個別設定機能は、現在のところ英語版オペレーティングシステムでのみ有効です。

- カスタマイズされた名前のバックアップファイルは復元 UI には表示されません。

バックアップの作成時、バックアップファイルの名前には固有の形式が使用されます。バックアップファイルの名前がデフォルト以外の形式に変更された場合、そのファイルはリストアの一部としてアプライアンスにアップロードされますが、アップロードされたファイルは UI には表示されません。

#### 推奨処置

リストア操作を正常に行うため、ダウンロードしたバックアップファイルの名前は変更しないでください。

### ドキュメントのアップデート

- 英語版オンラインヘルプでのみ入手可能な最新の更新情報

最新の追加情報がいくつか英語版のオンラインヘルプに加えられましたが、日本語版および中国語版のオンラインヘルプでは入手できません。

- Synergy サーバー固有の手順と制限事項

新しい項 Synergy サーバー固有の手順と制限事項には、HPE Insight Control サーバープロビジョニングのオンラインヘルプおよび HPE Insight Control サーバープロビジョニング管理者ガイドの「ハードウェアおよびソフトウェア固有の手順および例外」の項が含まれています。

この項には、Synergy サーバーでさまざまなハードウェアやソフトウェアを使用するための手順が記載されています。

## HPE Insight Control 仮想マシン管理

### 制限事項

- HPE Matrix Operating Environment は、仮想マシンにインストールされたハイパーバイザーをサポートしません。
- Windows マシンでのデバイス監視の有効化はサポートされません。
- Nano Server 2016 にインストールされる Microsoft System Center Virtual Machine Management Server はサポートされません。
- 運用チェックポイントは、Hyper-V 2016 上に作成された Hyper-V VM ではサポートされていません。
- **Nano サーバーまたは何らかのコアサーバーゲスト OS で VM を作成する場合、HPE Matrix インフラストラクチャオーケストレーションで OS をカスタマイズすることはできません。**

VM のオペレーティングシステムには CLI がなく、通常、OS をカスタマイズするために使用されるツールは CLI なしでは機能しません。そのため、IP、DNS、Host name、Join Domain\Workgroup、Gateway、Registered Organization、Product Key、Credentials、Autologon のようなプロパティを手動で構成します。

- **Hyper-V テンプレートは、クラスターの段階的アップグレードの一部として、Windows 2016 にアップグレードすることはできません。**

テンプレートは Microsoft のコンセプトに含まれません。そのため、Hyper-V の末端から機能レベルを Microsoft Windows Server 2016 にアップグレードする API はありません。

### 推奨処置

1. VMM API を使用して、Microsoft Windows Server 2012 R2 Hyper-V テンプレートを展開します。
  2. 展開される仮想マシンを Microsoft Windows Server 2016 Hyper-V の機能レベルにアップグレードします。
  3. 展開される仮想マシンを使用してテンプレートを再作成します。
- **Hyper-V ホストを登録するときに WMI Mapper プロキシの IP を検証する必要がある**  
HPE Insight Control 仮想マシン管理は、WMI Mapper と通信し、次に Hyper-V ホストと通信するためにいずれかの CMS IP を使用します。仮想マシン管理がネットワークアダプターを使用することは可能ですが、通信に使用することはできません。**CMS IP** のランダムな選択により、Java InetAddress API を使用すると Matrix Operating Environment の使用事例でパフォーマンスの低下が発生することがあります。

### 推奨処置

この問題を解決するには、以下の手順を実行してください。

1. 仮想マシン管理のデバッグログを有効にすることによって、使用中の CMS IP を識別します。
  - a. コマンドプロンプトを開き、次を入力します。<VMM-install>\clientapi\bin
  - b. 次のコマンドを入力して、**Enter** キーを押します。  
Adminlogin.cmd
  - c. 次のコマンドを入力して、**Enter** キーを押します。

```
Cli setLogLevel -level DEBUG
```

d. Hyper-V ホストが登録されている場合は、<VMM-install>\ logs\hvvmmsvc.log ファイル内から文字列 WMI Proxy IP = を検索します。

2. 通信に関する特定の CMS IP を使用する場合、<VMM-install>\bin\hvvm.conf ファイルにエントリ  
— WMIProxyServer=<IP Address>を作成します。
  3. 仮想マシン管理サービスを再起動します。
- ユーザーが DHCP 構成を指定すると、DNS サーバーの IP はネットワーク上の Windows または Linux のユーザーインターフェイスに表示されない

これは、Windows または Linux の UI の問題です。

#### 推奨処置

この問題を解決するには、Hyper-V VM の DNS サフィックスを手動で設定します。

- ESXi の Windows ゲスト OS について、複数の DNS サフィックスがサポートされない。たとえば、カンマ区切りのサフィックスはサポートされない。デフォルトでは、最初の DNS サフィックスの IP が設定される  
これは仮想マシン管理による制限です。
- 動的 IPv4 と静的 IPv6 を備える ESXi 上の Linux VM は、resolv.conf ファイル内にプライマリ DNS IP を示す  
これは仮想マシン管理による制限です。仮想マシン管理は Linux VM に複数の DNS IP を設定しますが、VM 内で作成される無人 xml は 1 つの IP アドレスだけを示します。
- デュアルネットワーク送信で、DNS ドメインが DNS サフィックスと異なっており、DNS ドメインが VM 用のプライマリ DNS サフィックスを設定する場合に、複数の DNS サフィックスが正常に動作する
- RDM ディスクサイズが変更（ストレージ側からの増減）されると、SAN を vCenter サーバーで再スキャンしても、HPE Insight Control 仮想マシン管理は新しい RDM ディスクサイズを認識しない

VMware vCenter は、ディスクサイズの変更に関して、EVA または HPE 3PAR StoreServ ストレージ管理コンソールを介して実行されたすべての変更イベントの通知を取得します。ユーザーが EVA または HPE 3PAR 管理コンソールを使用して LUN のサイズを増加または減少させた場合、vCenter はイベントを同様には生成しません。

#### 推奨処置

仮想マシン管理サービスを再起動するか、ESXi ホストの登録を解除し、再びホストを登録して更新されたサイズを取得します。

- RHEL 7.1 のカスタマイズが IP とホスト名の設定で失敗する

これは VMware による制限です。

#### 推奨処置

カスタマイズの後に手動で IP アドレスとホスト名を設定しなければなりません。

- Hyper-V が DHCP IPv4 または IPv6 に DNS サフィックスのカスタマイズを適用しない

HPE Insight Control 仮想マシン管理で、customizeSystem API は Hyper-V VM の DNS サフィックスの設定をサポートしません。

#### 推奨処置

これは、Windows の UI の問題です。この問題を解決するには、Hyper-V VM の DNS サフィックスを手動で設定します。

- ESXi 上で稼働する Windows 2012 および 2008 を HPE Insight Control 仮想マシン管理がカスタマイズしない

HPE Insight Control 仮想マシン管理は、ESXi ホスト上で稼働する Windows 2012 および 2008 ゲストオペレーティングシステムをカスタマイズしません。

#### 推奨処置

これは VMware による制限である可能性があります。この問題を解決するには、ゲストオペレーティングシステムに `Sysprep` 属性を手動で設定します。

- **ESXi 上の SUSE の DNS 検索サフィックスリストに、HPE Insight Control 仮想マシン管理が DNS ドメインを追加しない**

HPE Insight Control 仮想マシン管理 `customizeSystem` API は、ESXi ホスト上の SUSE ゲストオペレーティングシステムの DNS 検索サフィックスに DNS ドメインを追加しません。

#### 推奨処置

これは VMware による制限である可能性があります。この問題を解決するには、ESXi ホスト上の SUSE ゲストオペレーティングシステムの DNS 検索サフィックスに手動で DNS ドメインを追加します。

- **ESXi 上の RHEL 7.1 OS が IPv6 DHCP サーバーから DHCP アドレスを取得しない**

HPE Insight Control 仮想マシン管理 `customizeSystem` API は、ESXi ホスト上の RHEL7.1 OS の IPv6 DHCP アドレスを追加しません。

#### 推奨処置

これは VMware による制限である可能性があります。この問題を解決するには、ESXi ホスト上の RHEL 7.1 OS の DHCP アドレスを手動で有効にします。

- **HPE Insight Control 仮想マシン管理は、ESXi サーバー上の Linux VM に複数の DNS サフィックスまたは DNS サーバーを設定しない**

HPE Insight Control 仮想マシン管理 `customizeSystem` API は、ESXi ホスト上の Linux VM の DNS サフィックスを複数設定することをサポートしません。

#### 推奨処置

これは HPE Insight Control 仮想マシン管理による制限です。この問題を解決するには、ESXi ホスト上の Linux VM の DNS サフィックスを手動で設定します。

- **IM 7.4 Update 1 で、Hyper-V 仮想マシンテンプレートの作成が失敗する**

デフォルトフォルダー `C:\ProgramData\Microsoft` の下で Hyper-V 仮想マシンまたはテンプレートの作成を試みても、IM 7.4 Update 1 がトランスポート操作と制御操作をサポートしません。これは Insight Control 仮想マシン管理による制限です。

#### 推奨処置

この問題を解決するために、Hyper-V マネージャー GUI またはフェールオーバークラスターマネージャー GUI を使用して、デフォルトフォルダーに VM または VM テンプレートを作成しないでください。

- **Hyper-V レプリカ環境では、VM の複製と計画済み/計画外のフェイルオーバーの後、VM は仮想マシン管理 UI で複製サーバーに関連付けられない**

プライマリサイトの VM で複製を有効にした後、計画済み/計画外のフェイルオーバーが発生しても、複製 VM がプライマリホストに関連付けられたままで複製ホストには関連付けられていない場合があります。また、場合によっては、複製とフェイルオーバーの後、VM がホストとの正しい関連付けを表示しないことがあります。

#### 推奨処置

計画済みのフェイルオーバーの後、複製 VM に対して、Hyper-V ホストからの逆方向の複製を有効にします。詳しくは、*HPE Matrix Operating Environment Co-Existence with Microsoft Hyper-V Replica* ホワイトペーパーを参照してください。

- **静的 IP 割り当てを使用して展開された NVGRE テンプレートが、未識別のネットワークとして識別される**

Matrix Operating Environment を介して、静的 IP を備える Matrix インフラストラクチャオーケストレーションサービステンプレートの展開を試みると、ネットワークプロパティタブの下で、ネットワークが未識別のネットワークとして識別されます。

これは、Microsoft SCVMM からの予想される動作です。

- **ESX および Hyper-V 上のディスクのサイズ変更に関する制限事項**

以下のリストは、ESX および Hyper-V 上のディスクのサイズ変更に関する制限事項について説明します。

1. 仮想マシン管理からディスクのサイズを変更した後で、ユーザー/管理者は、仮想マシンのオペレーティングシステムのディスク管理から、サイズ変更したディスクのボリュームを拡張することになっています。
2. Hyper-V の場合、ディスクのサイズ変更は Hyper-V 2012、Hyper-V 2012 R2 ホスト以降で利用できます。
3. VMware の場合、ディスクのサイズ変更は VMware vCenter 5.0 以降で利用できます。
4. 縮小は、Hyper-V 2012、Hyper-V 2012 R2 ホスト以降でのみサポートされます。

- **Virtual Center から HotCPUPlug および HotMemoryPlug を有効または無効にする場合の制限**

Virtual Center の UI では、**電源オン**の状態にある VM (ESX) のメモリまたは CPU のホットプラグを有効にすることはできません。

HPE Insight Control 仮想マシン管理は、VM の電源のオン/オフ状態に関係なく、メモリおよび CPU のホットプラグを有効または無効にすることをサポートします。これは、VISDK を使用すると、電源がオンの状態にある VM のメモリおよび CPU のホットプラグを有効または無効にできるためです。

Virtual Center でメモリまたは CPU のホットプラグオプションを利用できないゲストオペレーティングシステムを次のリストに示します。

- Microsoft Windows XP Professional (32 ビット)
- Microsoft Windows XP Professional (64 ビット)
- Microsoft Windows Vista (32 ビット)
- Microsoft Windows Vista (64 ビット)
- Microsoft Windows Small Business Server 2003
- Microsoft Windows Server 2003 Standard (32 ビット)
- Microsoft Windows Server 2003 Standard (64 ビット)
- Microsoft Windows Server Web Edition 2003
- Red Hat Enterprise Linux 5 (32 ビット)
- Red Hat Enterprise Linux 4 (64 ビット)
- Red Hat Enterprise Linux 4 (32 ビット)
- Red Hat Enterprise Linux 3 (64 ビット)
- Red Hat Enterprise Linux 3 (32 ビット)
- Red Hat Enterprise Linux 2.1
- Novell SUSE Linux Enterprise 10 (32 ビット)
- Novell SUSE Linux Enterprise 8/9 (64 ビット)
- Novell SUSE Linux Enterprise 8/9 (32 ビット)
- Novell Open Enterprise Server
- Novell Netware 6.x
- Novell Netware 5.1
- Oracle Solaris 11 (64 ビット)
- Oracle Solaris 10 (64 ビット)
- Oracle Solaris 10 (32 ビット)

- **Microsoft Robocopy ツールを使用すると、転送操作が失敗する**

Microsoft の Robocopy ツールを使用し、転送操作 (createTemplate、DeployTemplate、copyVM) の一部として VHD ファイルをコピーする場合、1 テラバイト (TB) を超える仮想ハードディスクをコピーしようとすると、Robocopy ジョブがコピープロセスをデーモンスレッドとして作成し、呼び出し元に戻ります。このため、転送操作が失敗することがあります。

**推奨処置**

これは、Microsoft の Robocopy ツールの制限です。

- **VM がネットワークアダプターを持っていないと、ESXi 上の RHEL 6.x ゲスト OS のカスタマイズが失敗する**

RHEL 6.X ゲスト OS のインストール時に、ESXi VM がネットワークアダプターを持っていないと、OS のカスタマイズは必ず失敗します。RHEL 6.x 以前（例：5.x バージョン）では、VM に接続されているネットワークアダプターがない場合でも、RHEL は `/etc/sysconfig/ネットワークフォルダー` を作成します。6.x 以降のリリースでは、OS のインストール時にユーザーがネットワークアダプターを接続しないかぎり、RHEL はこのフォルダーを作成しません。

#### 推奨処置

RHEL 6.x 以降の OS では、OS のインストール中に、ユーザーがネットワークアダプターを接続する必要があります。そうしない場合は、`touch /etc/sysconfig/network` コマンドを使用して、ゲスト OS でフォルダーを手動で作成する必要があります。

- **電源が入っている VM の CPU プロパティの更新に失敗する**

ESX で、オペレーティングシステムのない仮想マシン上で Hot ADD CPU 機能を有効にしている、電源がオンの状態にある VM の CPU プロパティを更新しようとすると、更新が失敗します。これは、vCenter の UI および ViSDK の両方で発生します。

#### 推奨処置

これは、オペレーティングシステムのない仮想マシンに対する VMware の制限であり、電源がオンの状態にある VM の CPU プロパティは更新できません。

- **パスワードに特殊文字 ("") を含むホストへの VM の展開が、予想どおりに機能しない**

パスワードに特殊文字 ("") を含むホストに HPE Matrix インフラストラクチャオーケストレーションで VM をプロビジョニングしようとすると、「Failed to copy sysprep files from CMS to Host」というエラーメッセージが表示されて失敗します。

#### 推奨処置

VM を正しくカスタマイズするために、ホストパスワードを特殊文字 ("") を含まないものに変更することをおすすめします。

- **Microsoft Hyper-V ゲストに関連する操作**

Microsoft Hyper-V サーバーに対して HPE Insight Management コンポーネントから操作すると、Hyper-V ホスト上の C:\ に一時ファイルが作成される場合があります。操作の完了後はこれらのファイルは必要がなく、手動で削除することができます。これらの操作には、仮想マシンのコピー、移動、テンプレート、バックアップ、リンクされたクローン、および VM カスタマイズなどがあります。

## 重要な問題

- **多くの Hyper-V ホストを管理する SCVMM サーバーで、SCVMM サーバーのメモリ消費量が増加する**

SCVMM が多くの Hyper-V ホストを管理している場合、HPE Matrix SCVMM Web サービスが急激に増加し、ハングします。その結果、SCVMM では例外「Confirm if HPE Matrix SCVMM Web Service is installed, is up and running on the port 7999.Exception : null」が表示され失敗します。

これは、接続が接続プールに返されないという VMM の問題です。そのため、HPE Matrix SCVMM Web サービスのメモリは、ある程度肥大化します。その結果、HPE Matrix SCVMM Web サービスが失敗するか、または SCVMM に関連する HPE Insight Orchestration API が低速になります。

#### 推奨処置

HPE Matrix SCVMM Web サービス (SCVMM サーバー上のエージェント) を定期的に再起動するか、次のスクリプトを実行し、Windows スケジューラーを使用して定期的に HPE Matrix SCVMM Web サービスを再起動します。

```
Stop-Process -name "VMMSCVMMBridgeWindowsService" -Force  
[string]$fetch = Get-Date; ($fetch + " Matrix Service Stopped ") |  
out-file C:\Temp\RestartMatrix.log -Append
```

```
Start-Sleep -s 10  
Start-Service "HPE Matrix Scvmm Web Service"  
[string]$fetch = Get-Date; ($fetch + "Matrix Service Started ") |  
out-file C:\Temp\RestartMatrix.log -Append
```

- **HPE Insight Control 仮想マシン管理が Hyper-V のステータスとして disconnected を返す**

仮想マシン管理が保持している WMI Mapper IP が存在しない場合、HPE Insight Control 仮想マシン管理は Hyper-V ホストのステータスを `disconnected` として返します。

#### 推奨処置

WMI Mapper プロキシの IP を変更するときに、仮想マシン管理サービスを再起動するか、仮想マシン管理 `conf` ファイル (WMIProxyServer) にキー値を入力します。仮想マシン管理サービスを再起動します。

- **2つのネットワークアダプターが別々の DNS サフィックスを持つ場合、ESXi Linux の VM のカスタマイズが失敗する**

2つのネットワークアダプターを持つ ESXi VM ホストで (HPE Matrix インフラストラクチャオーケストレーションを使用して) Linux VM を作成またはプロビジョニングし、Linux VM と DNS サフィックスを各ネットワークアダプターのドメインに追加すると、操作は失敗します。ドメイン名が2番目のネットワーク DNS サフィックスと一致する場合、ゲストの正しい FQDN は設定されません。これは、VMware に関わる問題です。

#### 推奨処置

この問題を解決するには、Matrix インフラストラクチャオーケストレーションのネットワークタブで、常にプライマリ NIC を使用します。プライマリ NIC は、サービス要求を作成するための、同じドメイン名と DNS サフィックスを持ちます。

- **エラーメッセージ: 正しいクラスターディスクリソースを見つけることができませんでした**

大規模環境では、Matrix インフラストラクチャオーケストレーションサービス要求は失敗し、次のメッセージが生成されます。正しいクラスターディスクリソースを見つけることができませんでした。

これは Microsoft WMI の問題であり、WMI はクラスターディスクリソースの検索に時間を要します。

#### 推奨処置

WMI サービスまたは Hyper-V ホストを再起動します。

- **SCVMM (Microsoft System Center Virtual Machine Management) での、同じ VM 名を持つ2つのエントリ**

Hyper-V VM を SCVMM 2012 SP 1 および SCVMM 2012 R2 上の論理スイッチと関連付けると、SCVMM コンソールが同じ名前の2つの VM を作成し、同じ VM ファイルがポイントされます。

これは、SCVMM コンソールの問題です。

#### 推奨処置

重複するインスタンスを無視します。SCVMM コンソールから、重複する VM を削除しないでください。

- **HPE Insight Control 仮想マシン管理がプロビジョニングの実行中に仮想ハードディスクの詳細情報の更新に失敗する**

Hyper-V VM がクローン化された VM にリンクされている場合、リンクされたクローンにデータディスクを接続しようとすると、操作は失敗します。次のエラーメッセージが表示されることがあります。Drive in Use. Unable to attach Virtual Hard Disk. (仮想ハードディスクを接続できません。)



これは Microsoft の問題であり、WMI がディスクへの接続に失敗しています。また、WMI プロセスは、ディスク接続の目的での WMI クエリの実行のためにロックされます。

#### 推奨処置

この問題を解決するには、Hyper-V ホストを再起動します。

#### • SCVMM の展開が Gen2 仮想マシンで失敗する

SCVMM から Gen2 仮想マシンのテンプレートを作成し展開しようとする、展開は次のエラーメッセージが表示されて失敗します。VMM cannot find the device or this device is not valid for a boot device。

#### 推奨処置 1

VM の作成後、テンプレートの作成前に、ブート順序を変更します。仮想ハードディスクをブート順序の最上位に移し、SCVMM からテンプレートを取得します。これにより、Gen2 VM の SCVMM 展開に関する問題が解決されます。

#### 推奨処置 2

VM からテンプレートを作成した後、テンプレートの最初のブートデバイスを有効なデバイス（この場合は仮想ハードディスク）に変更します。たとえば、PS C:\> Set-SCVMTemplate -Template \$t -FirstBootDevice "SCSI,0,0"とします。

#### • Microsoft Windows Server 2012 Hyper-V と Microsoft Windows Server 2012 R2 Hyper-V で、Hyper-V プロビジョニングがタイムアウトエラーで失敗する

Microsoft Windows Server 2012 Hyper-V と Microsoft Windows Server 2012 R2 Hyper-V で、Hyper-V プロビジョニングがタイムアウトエラーで失敗します。また、展開した VM の登録に失敗することがあります。Hyper-V ホストのパフォーマンスが低下すると、WMI クエリによる必要なデータの取得が遅くなります。

#### 推奨処置

この問題を解決するには、以下の手順に従ってください。

1. <vmm-install>\bin\hpvmm.conf のパラメーター *HyperVQueryTimeout* を使用して *CIM Client time out* 期間を 900000 に増やし、HPE Insight Control 仮想マシン管理サービスを再起動します。
2. <MAPPER\_INSTALLED\_DIR>の *cimserver\_planned.conf* ファイルで *serverTimeOut* の値を 900000 に設定し、マッパーを再起動します。

#### • HPE Insight Control 仮想マシン管理を使用して、仮想マシンの電源のオンまたはオフの操作を実行できない

VM をバックアップからリストアした場合、HPE Insight Control 仮想マシン管理を使用して VM の電源をオンまたはオフにする操作が失敗します。バックアップおよびリストアは、HPE Data Protector ソフトウェアを使用して実行します。バックアップされた VM の場合は、*getVmDetails* API で、間違っただけが表示されます。

#### 推奨処置

次の手順を使用して、vCenter で VM を登録解除/登録します。

1. vCenter で VM を選択し（VM が電源オフの状態にあることを確認します）、右クリックしてインベントリから削除を選択します。これにより、インベントリから VM が登録解除されます。
2. vCenter インベントリ > データストアおよびデータストアクラスタに移動します。
3. VM が以前存在していたデータストアを選択し、右クリックしてデータストアを参照します。
4. データストアで VM の .vmx ファイルを選択し、右クリックしてオプションインベントリへの追加を選択します。これにより、VM の登録が完了します。仮想マシン管理から VM の電源のオンまたはオフの操作を実行できるようになりました。

#### • ホストの IP アドレスを変更すると、仮想マシン管理はホストを管理できない

ハイパーバイザーホストの IP アドレスが変更されると、仮想マシン管理はホストを管理できなくなります。

#### 推奨処置

IP アドレスを変更する前にハイパーバイザーホストの登録を解除することをおすすめします。IP アドレスが変更された後で、HPE Systems Insight Manager でホストを識別し、仮想マシン管理に登録します。ホストの登録を解除しないで IP アドレスを変更する場合は、vmcli ツールを使用して古い IP アドレスでホストの登録を解除し、新しい IP アドレスで登録します。

- **VMware は、ディザスターリカバリの一環として、保護されたサイトでアクセスできなくなったライブ VM とシャドウ VM の両方で、HPE Insight Control 仮想マシン管理に同じ UUID を返す（ディザスターリカバリは VMware vCenter SRM プラグインを使用してトリガーできる）**

これは、VMware の問題です。

#### 推奨処置

1 つ以上のホストが切断されているかオフラインになっている場合は、SRM リカバリプロセスを完了する準備ができるまで、オンラインに戻さないでください。1 つ以上のホストでストレージにアクセスできない場合は、問題が解決されて、SRM リカバリプロセスを開始する準備ができるまで、それらのホストをシャットダウンする必要があります。

- **Microsoft Windows 2012 R2 ホストで静的 IPv4 が使用されている場合、Microsoft Windows 2012 のゲストの NIC のカスタマイズが失敗する**

Windows 2012 R2 Hyper-V ホストでゲストとして Windows Server 2012 に sysprep を実行しようとする場合、特定のツールが VM にインストールされている場合を除き、IPv4 アドレスが正しく設定されません。IPv6 アドレス、IPv4 DNS、およびゲートウェイアドレスは、HPE Insight Control 仮想マシン管理から提供される sysprep.xml ファイルを使用して正しく設定されます。

#### 推奨処置

sysprep を実行する前に VM に静的 IP が設定されている場合は、この問題は発生しません。このため、sysprep の前に汎用的な疑似静的 IPv4 アドレスを設定するだけで、この問題は防げます。設定しない場合は、この問題を防止するために、sysprep を実行する前に、Windows 8 Client および Windows Server 2012 の一般公開用の更新プログラムのロールアップを VM にインストールする必要があります。KB 2756872 のリンクは <http://support.microsoft.com/kb/2756872>、更新プログラムをダウンロードするリンクは <http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=34943> です。

カスタマイズの一環として、Hyper-V 2012 R2 ホストで Microsoft Windows 2012 のゲストを作成する場合、およびゲスト VM でコマンド `C:\Windows\System32\Sysprep\Sysprep.exe` を使用してゲストに sysprep を行おうとした場合、再起動時に「vmbus.sys couldn't be loaded」というエラーが表示されて失敗します。

この問題を解決するには、sysprep を実行する前に、Windows 8 Client および Windows Server 2012 の一般公開用の更新プログラムのロールアップを VM にインストールする必要があります。

- **デュアル NIC シナリオのセカンダリ NIC 用にプロビジョニングされた VM に、デフォルトのゲートウェイが設定されていない**

VM を正常にプロビジョニングした後で、セカンダリ NIC にデフォルトのゲートウェイが設定されていません。

#### 推奨処置

セカンダリ NIC の IP アドレスにアクセスするには、セカンダリ NIC でデフォルトのゲートウェイを手動で追加します。

## 軽度な問題

- **仮想マシンディスクがオンラインではない場合、またはドライブ文字がない場合、VM のディスクパーティションはディスクを表示しない**

これは予期される動作です。

#### 推奨処置

ドライブ文字を作成し、確実にディスクをオンラインにします。

- **80 文字を越える VM 名で VM のバックアップを復元すると、復元は失敗する**

これは Microsoft WMI の制限です。

#### 推奨処置

Hyper-V VM 名には 80 文字を越える文字を使用しないでください。

- **ESXi 5.5 Update 2 でホストされている RHEL 7.0 ゲストでカスタマイズに失敗する**

これは VMware の問題で、vCenter カスタマイズ仕様を使用しても再現可能です。

#### 推奨処置

この問題を解決するには、VM にカスタマイズ可能なパラメーターを手動で設定します。

- **クラスター化された Hyper-V ホスト上のディスク番号が異なる場合に Hyper-V 論理サーバーのアクティブ化が失敗する**

この問題は、所有者ノードでない Hyper-V ノードについてのみ発生します。Hyper-V クラスターのクラスターディスクのディスク ID が異なる場合、VM は誤ったクラスターディスクに関連付けられます。

これは、Microsoft の問題です。

#### 推奨処置

この問題を解決するには、各ノードのディスク ID が同じであることを確認します。

- **Hyper-V 2012 R2 ホスト RDM ディスクが OS によってマウントされている場合に VM がディスクを使用できない**

Hyper-V 2012 R2 ホスト上の VM でクラスターパススルーディスクがボリュームに接続されている（ドライブは後で割り当てられる）場合、VM の非アクティブ時にボリュームが Hyper-V ホスト上に表示されます。結果として、getHostDetails API フラグ inUse は 1 と表示されます。また、ターゲットホストは、VM をアクティブ化する際にフィルター処理されます。

#### 推奨処置

この問題を解決するには、VM をアクティブ化する前に、手動でクラスターディスクをオフラインに設定します。その後、ターゲットの Hyper-V ホストを選択して、ディスクをオンラインとして設定します。

- **Hyper-V VM での Raw LUN（ディスクパススルー）ディスクの追加が失敗する**

Hyper-V VM の RDM ディスクを追加すると、エラーメッセージ「minimum of 2048 MB for RAM memory required」で失敗します。ある時点で、WMI データベースはメモリの値を -1 に設定します。したがって、VM 設定のすべての更新で操作が失敗します。

#### 推奨処置

メモリを有効な値にアップデートするには、VM の電源をオンまたはオフにします。この操作により VM の状態が更新され、それに応じて VM の設定が自動的にアップデートされます。

- **HPE Insight Control 仮想マシン管理が、ESXi 上で稼働する Microsoft Windows 2012 または Microsoft Windows 2008 をカスタマイズできない**

場合によっては、HPE Insight Control 仮想マシン管理が、ESXi ホスト上で稼働する Microsoft Windows 2012 または Microsoft Windows 2008 ゲストオペレーティングシステムをカスタマイズできないことがあります。

これは VMware による制限です。

#### 推奨処置

この問題を解決するには、ゲストオペレーティングシステムの Sysprep 属性を手動で設定します。

- **Raw Device Mapping (RDM) ディスクを使用する VM を別のホストのインベントリに追加すると、レイアウトディスク MOB の取り込みに失敗する**

RDM ディスクサイズをストレージ UI out-of-band から更新する場合、getVmDetails コマンドは、更新後のディスクサイズを表示しません。

#### 推奨処置

これは HPE Insight Control 仮想マシン管理の制限で、VMware ViSDK は更新されたデータを取り出しません。

- **VM 上の createLinkedClone API が、VMware VVOL\Virtual SAN データストアに対して失敗する**

ソース VM 上で作成されたスナップショットは、VVOL\Virtual SAN データストア上にいずれかのデルタ VMDK ファイルを作成しません。これは、VMware の問題です。

現時点では、既知の回避策はありません。

- **Hyper-V VM の正しくない論理サーバー名が SuSE 12.1 とともに Matrix OE ビジュアル化に表示される**

Hyper-V VM については Linux のカスタマイズはサポートされていません。したがって、VM が論理サーバーとしてインポートされている場合は、ホスト名は `getaddrinfo failed: Name or service 0xfffffffffe nor known` として表示されます。

#### 推奨処置

VM 内で、`/etc/hosts`, `/etc/sysconfig/network [HOSTNAME= ]` および端末 `hostname` コマンドがまったく同じものであることを確認してください。たとえば、`test1` には `/etc/hosts` に `127.0.0.1 test1 test1.domain localhost localhost.local` があり、`/etc/sysconfig/network` には `HOSTNAME=test1.domain.com NETWORKING=yes` がある必要があります。

- **2 つのディスクを持つ SCVMM Gen2 がデータディスクをブートディスクとして使用する**

複数の SCSI コントローラーに接続されている複数のディスクを含む Gen2 テンプレートを持つ SCVMM が、展開された VM のカスタマイズに失敗します。また、`getVmDetails` 仮想マシン管理 API により、ディスクとコントローラーの正しくない関連付けが表示されることがあります。

Microsoft は、SCSI コントローラーを識別するオプションを提供していません。

#### 推奨処置

単一の SCSI コントローラーに接続されている複数のディスクを持つ SCVMM Gen2 のタイプのテンプレートを作成します。

- **すべての Hyper-V クラスターノードのクラスターディスクのディスク ID が異なる場合、VM が誤ったクラスターディスクに関連付けられる。この問題は、所有者以外のクラスターディスクにのみ発生する**

この動作はサポートされているすべての Hyper-V バージョンで表示され、フェールオーバークラスターマネージャー GUI などの Microsoft ツールを使用する場合に同様なことが見られます。

#### 推奨処置

各ノード上のディスク ID が同じであることを確認します。

- **ホスト内でのディスクの重複を避けるために MPIO をインストールする必要がある**

いずれかの LUN がホストに接続されている場合、ディスク管理セクションで重複したディスクとして表示されます。

#### 推奨処置

この問題を解決するには、ホストで MPIO を有効にする必要があります。

- **ESXi6.0u2 での Win2008 R2 SP 1 ゲストカスタマイズについての自動ログオンに失敗する**

ESXi 6.0 Update 2 の Windows 2008 R2 SP 1 のゲスト VM でカスタマイズが成功した後に、自動ログオンの代わりに Windows をセットアップするための画面のプロンプトが表示されます。ログインすると、他のすべてのカスタマイズパラメーターが設定されます。

これは、ESXi 6.0 Update 2 の Windows 2008 R2 SP 1 のゲストに対して見られる VMware の問題です。

- **IO プロビジョニング中に Hyper-V HA に対応した VM が、SAVED 状態でライブ移行する**

クラスターおよび NVGRE のネットワークの組み合わせが IO プロビジョニング中に使用される場合、HA に対応した仮想マシンが、SAVED 状態で別のノードに移動する場合があります。この条件により、仮想マシンの編集はできません。

### 推奨処置

この問題を解決するには、VM 内でクラスターネットワークと NVGRE 対応の論理スイッチの組み合わせを使用しないようにします。

- **HPE Insight Control 仮想マシン管理のバージョンアップグレードにより、VME ステータスが切断として設定される**

HPE Insight Control 仮想マシン管理バージョンをアップグレードすると、仮想マシン管理は VME ステータスを切断として設定します。

### 推奨処置

この問題を解決するには、VME の登録を解除してから再登録します。

- **CMS 上で SCVMM 2012 SP 1 および SCVMM 2012 R2 サーバーの登録が失敗する**

SCVMM 2012 SP 1 および SCVMM 2012 R2 サーバーの登録が失敗することがあります。これは断続的な問題であり、任意の CMS オペレーティングシステムで構成されている CMS 上では複数回確認されています。

### 推奨処置 1

この問題を解決するには、SCVMM サーバーの登録を再試行してください。

### 推奨処置 2

hpvmm.conf ファイル (<IM installation>\Insight Control virtual machine management \bin に存在) にパラメーター `SCVMM_Retries` を追加し、値を 5 より大きい値に設定します。HPE Insight Control 仮想マシン管理サービスを再起動し、登録を再試行してください。

### 推奨処置 3

まだ、SCVMM の登録に失敗する場合は、以下の手順を実行します。

1. HPE Matrix SCVMM Web サービスが SCVMM サーバーにインストールされているかを確認します。
2. HPE Matrix SCVMM Web サービスがインストールされていない場合、<IM installation>\Insight Control virtual machine management\bin からターゲットの SCVMM サーバーに `ScvmmWS2012.msi` ファイルをコピーします。
3. 手動で、HPE Matrix SCVMM Web サービスをインストールします。
4. SCVMM サーバー上で HPE Matrix SCVMM Web サービスを実行し、SCVMM サーバーを再登録します。

### 推奨処置 4

別の推奨される処置を以下に示します。

1. MSI をアップグレードする前に、VME を登録します。
  2. アップグレードが完了したら、古い MSI がアンインストールされます。ただし、SCVMM サーバーに最新の MSI をコピーすることは Microsoft により許可されていないため、インストールに失敗する可能性があります。
- **仮想マシン名が正しく表示されない**  
仮想マシン名に特殊文字が含まれている場合、仮想マシン管理のユーザーインターフェイスに仮想マシン名が正しく表示されない場合があります。

### 推奨処置

仮想マシン名に特殊文字を使用しないことをおすすめします。このような仮想マシン名を適切に変更してください。

- **ホスト/ゲスト制御ボタンが無効になっている**

仮想マシン名に非 ANSI 文字が含まれている場合、ホスト/ゲストシステムページにある制御ボタンは無効になります。

### 推奨処置

HPE Systems Insight Manager のユーザーインターフェイスから、ツール > 仮想マシンを実行し、適切な制御操作を選択します。

## HPE Insight Control パフォーマンス管理

### 制限事項

- HPE Insight Control パフォーマンス管理の左側のペインに何も表示されない

NIC チョーミングが英語以外のアダプター名で監視対象のサーバーに構成されている場合、HPE Insight Control パフォーマンス管理で左側のペインが空白になり、オフライン分析が表示されません。

#### 推奨処置

チョーミングアダプターのデバイス名を英語以外から英語に変更します。

- ネットワークアダプターおよびポートがオンライン分析ページに表示されない

モード 0 でボンディングされている NIC がある場合、ネットワークアダプターおよびポートがオンライン分析ページに表示されません。そのボンディングも表示されません。これは、NIC ボンディングのランダムな動作が原因です。

- 構成の推奨事項

このバージョンのソフトウェアでは、パフォーマンス管理に構成の推奨事項はありません。

- OS として RHEL 7 をインストールしているノードを監視しているときに、アイコンがクリティカルに変わる  
RHEL 7 Linux サーバーの PF アイコンは、MA (監視管理) ページで監視した後、クリティカルに変わります。

#### 推奨処置

詳しくは、<http://www.hpe.com/jp/insightcontrol> にある *HPE Insight Control パフォーマンス管理ユーザーガイド* のトラブルシューティングの項に記載されている手順に従ってください。

- HPE Insight Control パフォーマンス管理のオンライン/オフラインステータスおよびストレージコンポーネントのグラフの値が「0」に変わっている

`isWindows()` メソッドは、ノードが Windows ノードであるか、Linux ノードであるかを確認し、`windowsOsType.properties` ファイル内に存在していない `cpqHoOsType` のすべての整数値に対して `false` を返します。以後のデータ収集を試みた場合、Windows ノードであっても、ゼロの値を返すことによって、Linux Oid についてデフォルトのデータ収集が試みられます。

#### 推奨処置

詳しくは、<http://www.hpe.com/jp/insightcontrol> にある *HPE Insight Control パフォーマンス管理ユーザーガイド* のトラブルシューティングの項に記載されている手順に従ってください。

- ストレージコントローラー名が、HPE Insight Control パフォーマンス管理のオンライン/オフライン分析ページに表示されない

MIB が `controllercard.properties` ファイルに存在する ID 以外のコントローラー ID を返したときに必ず、このエラーが発生します。これは、カードが新しいので MIB が新しい整数値を返しているため、またはコントローラーカード名が `controller.properties` ファイルに存在しないためです。

#### 推奨処置

コントローラー名は、`controllerCard.properties` ファイルのコントローラー ID とともに追加する必要があります。詳しくは、<http://www.hpe.com/jp/insightcontrol> にある *HPE Insight Control パフォーマンス管理ユーザーガイド* のトラブルシューティングの項に記載されている手順に従ってください。

### 重要な問題

- オンライン/オフライン分析ページで、ストレージコンポーネントのステータスカウンターの値が「0」と表示される

Windows OS のみの構成の場合、HPE Insight Control パフォーマンス管理のオンライン/オフライン分析ページの右側のペインにあるストレージコンポーネントのステータス値が、Danelectro シリーズのコントローラに対して 0 と表示されます。

- **一部の監視対象サーバーが自動的に監視を停止する**

非アクティブな状態が長時間続くと、監視管理ページ内の一部のサーバーのステータス監視が停止することがあります。この動作は、スケラビリティ環境で断続的に観測されます。

**推奨処置**

監視管理ページから、監視を停止したサーバーを選択し、適用をクリックして選択したサーバーを監視します。

- **オフライン分析ページで、ネットワーク、ストレージ、およびホストバスサブシステムのステータスカウンターの値が「0」と表示される**

オフライン分析では、サーバーの連続的なパフォーマンスを再生し、監視するために、サーバーのパフォーマンスと構成データがデータベースから取り出されます。オフライン分析では、ステータステーブルとステータスタブに、ネットワーク、ストレージ、およびホストバスサブシステムのカウンターの値が「0」と表示されます。オンライン分析ページでは、値が表示され、データがデータベースから使用できます。

## 軽度な問題

- **ICPM のリストに管理対象サーバーが複数回表示される**

HPE Insight Control ホームページまたは HPE Systems Insight Manager ホームページからノードを削除すると、デバイスキーが HPE SIM データベースから削除されます。ただし、デバイスキーは IC Perf テーブルには引き続き存在しています。

これは、IC Perf には SIM とは別のデータベースがあり、両方のテーブルから同時にエントリーを削除する機能がないためです。

この場合、同じノードの再検出を試みると、HPE SIM によって新しいデバイスキーが与えられ、同じデバイスキーが IC Perf データベースにコピーされます。このため、同じノードに 2 つの異なるデバイスキーが存在することになり、監視管理ページに複数のエントリーが表示されます。

**推奨処置**

HPE Systems Insight Manager ホームページからノードを削除する場合は、対応するデバイスキーのエントリーを IC Perf データベースの PMP\_Discovered\_Servers テーブルおよび PMP\_Monitored\_Servers テーブルから削除するようにします。

- **MIB walker が 10Gb 2 ポート 560 FLB アダプター用の正しい NIC 名を表示しない**

MIB walker は、10Gb 2 ポート 560 FLB アダプター用の正しい NIC 名を表示しません。

**推奨処置**

現時点では、既知の回避策はありません。

- **ProLiant SL250s Gen8 と ProLiant DL360p Gen8 のインベントリに、IPv4 アドレスが表示されない**

ProLiant SL250s Gen8 と ProLiant DL360p Gen8 では、インベントリに IPv4 アドレスが表示されません。

- **一部の PCI デバイスについて、カウンターが表示されない**

一部の PCI デバイスについて、パフォーマンスカウンターは表示されません。

- **一部の NIC アダプター（たとえば、NC7782 および NC7170）について、オンライン分析ですべてのネットワークポートが無効または未設定と表示される**

Windows で Microsoft Hyper-V テクノロジーを実行するサーバーで設定されているとき、または Linux でブリッジとして設定されているとき、一部のネットワークアダプターについてオンライン分析でネットワークポートが無効または未設定と表示される場合があります。

- **NIC チェミングタイプおよび関連ポートの詳細が表示されない**

ネットワークアダプターは、フェイルオーバーを処理するために、異なる NIC チューニングタイプで設定できます。また、IP アドレスは、チューニングされた NIC 上で構成されます。パフォーマンス管理は、オンライン分析ページのインベントリタブに、設定された NIC チューニングタイプ、関連ポート、または詳細を表示しません。

- **新バージョンの HPE Insight Control にアップグレードすると、HPE Insight Control パフォーマンス管理で管理対象 VM ホストサーバーの PF 欄にクリティカル/不明アイコンが表示される**

新バージョンの Insight Control にアップグレードすると、VM ホストサーバーの PF 欄にクリティカル/不明アイコンが表示されます。ただし、VM ホストサーバーはアップグレード後に HPE Insight Control 仮想マシン管理で再登録され、管理されます。

#### 推奨処置

次の手順を実行します。

1. VM ホストサーバーを選択します。
  2. HPE Systems Insight Manager ページでシステムの識別タスクを実行します。
- **NIC サブシステムのメジャーまたはマイナーパフォーマンス状態（アイコン）が、サーバーに、または PF 欄に反映されない**

サーバー上のネットワークコンポーネントに負荷がかかると、オンライン分析ページでネットワークサブシステム/NIC アダプター/NIC ポートコンポーネントにマイナーまたはメジャー状態アイコンが表示されます。ただし、統合されたステータスは、オンライン分析のサーバーモデルステータスまたは HPE Systems Insight Manager のすべてのシステムページの PF（パフォーマンス状態）アイコンに伝達しません。

- **オフライン分析ページで前のボトルネックへまたは次のボトルネックへボタンをクリックしても、サーバー構成ツリー内のステータスが変化しない**

システムのサブシステムコンポーネントステータスおよびカウンターの値は、再生用にデータベースに記録されます。ボトルネック状態にある前のボトルネックへおよび次のボトルネックへボタンをクリックすると、オフライン分析ページにシステムがマイナーまたはメジャー状態にあったときのデータが表示されます。ステータスアイコンと分析説明メッセージは、カウンターテーブルにリストされている値でステータスタブに正しい情報を表示します。ただし、同じコンポーネントについて、サーバー構成ツリーに正常ステータスアイコンが表示されます。

- **サーバーの監視を初めて起動した後で、監視管理ページがハングする**

サーバーの監視を初めて起動した後で、監視管理ページがハングする場合があります。

#### 推奨処置

HPE Systems Insight Manager サービスを再起動します。

- **HPE ProLiant ML 350p Gen8 および ProLiant DL360p Gen8 Linux ノードのストレージサブシステム値で、オンライン分析のステータスカウンターに「0」の値が表示される**

HPE ProLiant ML 350p Gen8 および ProLiant DL360p Gen8 Linux ノードにはアレイコントローラステータスカウンターの値が表示されますが、ストレージサブシステムでは、オンライン分析のステータスカウンターに「0」の値が表示されます。

## Insight managed system setup wizard

### 制限事項

- **権限昇格ツールがパスワードを要求する方式の権限昇格設定がサポートされない**

HPE Insight managed system setup wizard がサポートする権限昇格機能は、権限昇格ツール（su、sudo コマンドなど）がパスワードを要求しないように設定されている CMS 上でのみ有効です。権限の昇格がオンになっており、パスワードが要求されるときに機能を設定しようとする、ウィザードの実行出力に失敗のメッセージが現れる場合があります。

#### 推奨処置



権限昇格のパスワード要求が原因で機能が正しく設定されない場合は、managed system setup wizard の外部で機能を設定します。

パスワード要件をオフにするには、HPE SIM のオプション > セキュリティ > 権限の昇格メニューを使用し、「この権限の昇格用のツールはパスワードを要求します」チェックボックスをオフにします。なお、この構成変更を反映するには、CMS で管理されるシステムを再設定する必要があります。

- **HPE iLO 3 のサポート**

Insight managed system setup wizard の現在のリリースでは HPE iLO 3 がサポートされます。ただし、ProLiant 用 HPE iLO 3 には、ファームウェアバージョン 1.05 以上が必要です。

**推奨処置**

HPE iLO 3 ProLiant ファームウェアをバージョン 1.05 以降に更新してください。

- **HPE Insight managed system setup wizard が HPE Integrity rx2620 を設定しない**

このリリースでは、Insight managed system setup wizard を使用した HPE Integrity rx2620 サーバーの構成はサポートされていません。

**推奨処置**

手動で HPE Integrity rx2620 サーバーを設定してください。

## 重要な問題

- **Integrity VM4.1 以上および 11.31 HA-OE または DC-OE を実行する Integrity VM ホストを登録するためにパッチが必要である**

HPE Insight managed system setup wizard は、Integrity VM4.1 以上および 11.31 High Availability Operating Environment (HA-OE) または 11.31 Data Center Operating Environment (DC-OE) を実行する Integrity VM ホストを登録できません。

**推奨処置**

HP-UX 11i v3 Integrity VM ホストにパッチ PHSS\_40784 を適用します。パッチは、Serviceguard がインストールされているが、Serviceguard クラスタに含まれていないシステムに必要です。Serviceguard は、HP-UX 11i v3 HA-OE および DC-OE に付属しています。このパッチは <http://www.hpe.com/info/hpesc> からダウンロードできます。パッチをダウンロードするには、**検索: HPE サポートセンター**でパッチ番号を入力して検索します。

---

**注記:**

OS のバージョンおよびパッチの更新日付に基づいて、必要なパッチをダウンロードできます。

---

# Web サイト

## 全般的な Web サイト

Hewlett Packard Enterprise Information Library	<a href="http://www.hpe.com/info/EIL">http://www.hpe.com/info/EIL</a>
Hewlett Packard Enterprise サポートセンター	<a href="http://www.hpe.com/support/hpesc">http://www.hpe.com/support/hpesc</a>
Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide	<a href="http://www.hpe.com/assistance">http://www.hpe.com/assistance</a>
サブスクリプションサービス/サポートのアラート	<a href="http://www.hpe.com/support/e-updates-ja">http://www.hpe.com/support/e-updates-ja</a>
Software Depot	<a href="http://www.hpe.com/support/softwaredepot">http://www.hpe.com/support/softwaredepot</a>
カスタマーセルフリペア	<a href="http://www.hpe.com/support/selfrepair">http://www.hpe.com/support/selfrepair</a>
Insight Remote Support	<a href="http://www.hpe.com/info/insightremotesupport/docs">http://www.hpe.com/info/insightremotesupport/docs</a>

上記以外の Web サイトについては、[サポートと他のリソース](#)を参照してください。

## サポートと他のリソース

### Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス

- ライブアシスタンスについては、Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide の Web サイトを訪問してください。

<http://www.hpe.com/assistance>

- ドキュメントとサポートサービスにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの Web サイトに移動します。

<http://www.hpe.com/support/hpesc>

#### ご用意いただく情報

- テクニカルサポート登録番号（該当する場合）
- 製品名、モデルまたはバージョン、シリアル番号
- オペレーティングシステム名およびバージョン
- ファームウェアバージョン
- エラーメッセージ
- 製品固有のレポートおよびログ
- アドオン製品またはコンポーネント
- 他社製品またはコンポーネント

### アップデートへのアクセス

- 一部のソフトウェア製品では、その製品のインターフェイスを介してソフトウェアアップデートにアクセスするためのメカニズムが提供されます。製品のドキュメントを確認し、推奨されるソフトウェアアップデートの方法を特定します。
- 製品のアップデートをダウンロードするには、以下のいずれかに移動します。

**Hewlett Packard Enterprise サポートセンター**

<http://www.hpe.com/support/hpesc>

**Hewlett Packard Enterprise サポートセンター：ソフトウェアのダウンロード**

<http://www.hpe.com/support/downloads>

**Software Depot**

<http://www.hpe.com/support/softwaredepot>

- eNewsletters およびアラートにサブスクライブするには、以下の Web サイトにアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/e-updates-ja>

- お客様の権利の表示や更新を行ったり、契約と保証をプロフィールとリンクさせたりするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **More Information on Access to Support Materials** ページをご覧ください。

<http://www.hpe.com/support/AccessToSupportMaterials>

#### ❗ 重要:

一部のアップデートにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからアクセスするときに製品の権利付与情報が必要になる場合があります。関連する権利付与情報を使って HP パスポートをセットアップしておく必要があります。

## カスタマーセルフリペア (CSR)

Hewlett Packard Enterprise カスタマーセルフリペア (CSR) プログラムでは、ご使用の製品をお客様ご自身で修理することができます。CSR 部品を交換する必要がある場合、お客様のご都合のよいときに交換できるよう直接配送されます。一部の部品は CSR の対象になりません。CSR による修理が可能かどうかについては、Hewlett Packard Enterprise のサポート窓口が判断します。

## リモートサポート (HPE 通報サービス)

リモートサポートは、保証またはサポート契約の一部としてサポートデバイスでご利用いただけます。リモートサポートは、インテリジェントなイベント診断を提供し、ハードウェアイベントを Hewlett Packard Enterprise に安全な方法で自動通知します。これにより、ご使用の製品のサービスレベルに基づいて、迅速かつ正確な解決が行われます。ご使用のデバイスをリモートサポートに登録することを強くおすすめします。

ご使用の製品にリモートサポートの追加詳細情報が含まれる場合は、検索を使用してその情報を見つけてください。

### リモートサポートおよびプロアクティブケア情報

HPE 通報サービス	<a href="http://www.hpe.com/jp/hpalert">http://www.hpe.com/jp/hpalert</a>
HPE プロアクティブ ケアサービス	<a href="http://www.hpe.com/services/proactivecare-ja">http://www.hpe.com/services/proactivecare-ja</a>
HPE プロアクティブケアサービス : サポートされている製品のリスト	<a href="http://www.hpe.com/services/proactivecaresupportedproducts">http://www.hpe.com/services/proactivecaresupportedproducts</a> (英語)
HPE プロアクティブケアアドバンスドサービス : サポートされている製品のリスト	<a href="http://www.hpe.com/services/proactivecareadvancedsupportedproducts">http://www.hpe.com/services/proactivecareadvancedsupportedproducts</a>

### プロアクティブケアカスタマー情報

プロアクティブケアセントラル	<a href="http://www.hpe.com/services/proactivecarecentral">http://www.hpe.com/services/proactivecarecentral</a>
プロアクティブケアサービスのアクティブ化	<a href="http://www.hpe.com/services/proactivecarecentralgetstarted">http://www.hpe.com/services/proactivecarecentralgetstarted</a>

## 保証情報

ご使用の製品の保証を確認するには、Hewlett Packard Enterprise サポート センターで入手できる サーバー、ストレージ、電源、ネットワーク、およびラック製品の安全と準拠に関する情報を参照します。

<http://www.hpe.com/support/Safety-Compliance-EnterpriseProducts>

### 追加保証情報

HPE ProLiant と x86 サーバーおよびオプション	<a href="http://www.hpe.com/support/ProLiantServers-Warranties">http://www.hpe.com/support/ProLiantServers-Warranties</a>
HPE Enterprise サーバー	<a href="http://www.hpe.com/support/EnterpriseServers-Warranties">http://www.hpe.com/support/EnterpriseServers-Warranties</a>
HPE ストレージ製品	<a href="http://www.hpe.com/support/Storage-Warranties">http://www.hpe.com/support/Storage-Warranties</a>
HPE ネットワーク製品	<a href="http://www.hpe.com/support/Networking-Warranties">http://www.hpe.com/support/Networking-Warranties</a>

## 規定に関する情報

ご使用の製品の規定に関する情報を表示するには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターで入手できるサーバー、ストレージ、電源、ネットワーク、およびラック製品の安全と準拠に関する情報を参照します。

<http://www.hpe.com/support/Safety-Compliance-EnterpriseProducts>

## 規定に関する追加情報

Hewlett Packard Enterprise は、REACH（欧州議会と欧州理事会の規則 EC No 1907/2006）のような法的な要求事項に準拠する必要に応じて、弊社製品の含有化学物質に関する情報をお客様に提供することに全力で取り組んでいます。本製品の化学物質情報レポートについては、次をご覧ください。

<http://www.hpe.com/info/reach>

Hewlett Packard Enterprise 製品の環境および安全に関する情報やコンプライアンスに関するデータ（RoHS、REACH など）は、次をご覧ください。

<http://www.hpe.com/info/ecodata>（英語）

Hewlett Packard Enterprise の社内プログラム、製品リサイクル、エネルギーの有効利用などの環境情報については、次をご覧ください。

<http://www.hpe.com/info/environment>（英語）

## ドキュメントに関するご意見、ご指摘

Hewlett Packard Enterprise では、お客様により良いドキュメントを提供するように努めています。ドキュメントを改善するために役立てさせていただきますので、何らかの誤り、提案、コメントなどがございましたら、ドキュメントフィードバック担当（[docsfeedback@hpe.com](mailto:docsfeedback@hpe.com)）へお寄せください。この電子メールには、ドキュメントのタイトル、製品番号、版数、およびドキュメントの表紙に記載されている刊行日をご記載ください。オンラインヘルプの内容に関するフィードバックの場合は、製品名、製品のバージョン、ヘルプの版数、およびご利用規約ページに記載されている刊行日もお知らせください。